

巨理町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書

令和4年5月27日

巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

目 次

1	はじめに	1
2	検討委員会の在り方について	1
3	検討委員会の審議経過	1
4	アンケート調査結果の分析・考察及び報告会について	2
5	アンケート調査結果報告会後の審議経過	3
6	学校再編の方向性（事務局案）	4
7	検討委員会の意見	5
8	最後に	6

参考資料

巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会の審議経過	9
アンケート調査結果報告会資料	17
アンケート調査結果報告書（数値・グラフ編）	39
アンケート調査用紙等	57
アンケート調査結果報告会の記録	69
巨理町立小・中学校施設一覧	73
巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会設置要綱	74
巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会委員名簿	76

1 はじめに

亘理町立学校は、少子化による児童生徒数の減少により、一学年単学級編制の学校が小学校では6校中4校、中学校では4校中2校となっている。

一学年単学級編制の学校は、一学級当たりの児童生徒数も少なく、大集団によるダイナミックな学校行事や球技の学習におけるチーム編成、各教科におけるグループ学習に制限が出ている。クラス替えができない状況や中学校においては部活動の種類が少なく生徒の希望に添えない状況もある。

亘理町教育委員会では、町の将来を見据え、次代を担う子どもたちを育てるための持続可能な教育環境の在り方について検討する必要があると判断し、「亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会」（以下「検討委員会」という。）において、検討を進めることにした。 ※1

検討委員会は、持続可能な教育環境の在り方を検討するために、令和2年2月に会議をスタートさせ、以後、計13回の会議をとおして話し合った結果を報告書としてまとめた。

なお、この間「教育環境の整備に関するアンケート調査」や「アンケート調査結果報告会」を実施してきた。 ※2

※1：検討委員会は、小・中学校における極小規模化を避ける目的で小規模特認校制度等を検討するために平成29年5月に設置したものである。

※2：「教育環境の整備に関するアンケート調査用紙」及び「アンケート調査結果報告会」については参考資料として別項に掲載。

2 検討委員会の在り方について

本検討委員会は「方針を決定する」のではなく、様々な資料を基に、町内小・中学校の持続可能な教育環境の在り方を議論し、報告書としてまとめる役割を担うものである。議論の結果を一つにしぼる必要はなく、報告書の提出を受け、町が将来にわたる教育環境の在り方の方針を決めていくものである。

3 検討委員会の審議経過

令和2年2月の検討委員会では、本町の小規模特認校の現状が報告され、今後の児童生徒数の推移について委員の共通理解を図った。その後の会議においては、本町のまちづくり計画や近隣市町の学校再編先行事例を共有し、報告書作成までのロードマップを確認した。

令和3年1月には、①町立学校に在籍する児童生徒の保護者、②①以外で亘理町に住民票を有する児童生徒の保護者、③未就学児の保護者を対象にアンケート調査を実施し、その結果について分析及び考察を行うとともに、令和3年10月には町内4地区においてアンケート調査結果報告会を行った。

その後、アンケート調査結果報告会の内容も含め再検討し報告書を作成した。

4 アンケート調査結果の分析・考察及び報告会について

(1) アンケート調査 ※3

調査期間：令和3年1月5日～1月20日

調査対象者：①町立小・中学校に在籍する児童生徒の保護者

②①以外で巨理町に住民票を有する児童生徒の保護者

③未就学児の保護者

計 4, 034人

回収率：74.0% (2,985人回収)

※3：アンケート調査用紙は参考資料として別項に掲載。

(2) アンケート調査結果の分析・考察

- ① 保護者が考える望ましい一学年での学級数は、その数は別にして一学年複数学級である。これは小学校、中学校の別を問わない。
- ② 保護者は一学年複数学級の学校の良さとして、子どもの人間関係の幅が広がることと捉えている。一方で、教師の目が自分の子どもを含め一人一人に届きにくく、問題把握に時間がかかることや細やかな指導が行き届かないことを懸念している。
- ③ 保護者は一学年一学級の学校（一学級の人数が少ない学級）の良さとして、教師の目の届きやすさや、きめ細やかな指導の実現を挙げている。一方、友達関係に限られること、そしてPTA活動の負担が大きいことを欠点として挙げている。
- ④ 児童生徒数や学級数の減少の問題として、自分の子どもに対する細やかな指導の可能性というプラスの面の評価と、子どもたちの人間関係の固定化・序列化とその回避というマイナス面の評価を同時にしている。
- ⑤ 現状の学校数が再編・統合かについて、小学校では「再編・統合>現状のまま>学区再編成等その他」の順番となっている。望ましいのは一学年複数学級の学校であり、児童数の減少は避けられない局面であるが、現状のままで良いとする保護者が一定割合存在する。
- ⑥ 中学校においても「再編・統合>現状のまま>学区再編成等その他」の順番になっている。しかしその様相は小学校とは違っている。再編・統合の理由として「団体競技の種類・内容が制限されることが不安である」と挙げている。荒浜中学校ブロックと吉田中学校ブロック及び荒浜小学校の2つのブロックと長瀬小学校の2つのブロックではこの傾向が如実に表れている。
- ⑦ 再編・統合を進める場合の留意点は、何といたっても通学のための足の確保であり、これに保護者の負担を伴わない取組が必要になる。

<共通理解項目>

ブロック：各小学校未就学児童の保護者（R2年度）「(巨未) (荒未) (吉未) (長未) (逢未) (高未)」の計6ブロック、各小学校に在籍している児童の保護者（R2年度）「(巨籍) (荒籍) (吉籍) (長籍) (逢籍) (高籍)」の計6ブロック、各中学校の保護者（R2年度）「(巨中) (荒中) (吉中) (逢中)」の計4ブロック。合計16ブロックの意味である。

保護者：本調査の対象となった保護者全員のことである。

(3) アンケート調査結果報告会 ※4

令和3年10月には、アンケート調査結果報告会を開催し、調査結果の分析・考察を示した上で、現時点での検討委員会の意見を公表した。

公表した内容については、以下のとおり。

□検討委員会の意見の視点

将来を担う亘理町の子どもたちを育てるための将来的に持続可能な教育環境

□検討委員会の意見

町立学校の再編を進める

□再編を進めるにあたって解決すべき事項

- ①地域や保護者への説明と理解
- ②児童生徒の通学の足の確保
- ③子ども一人一人への対応と魅力ある学校づくり
- ④放課後児童クラブの利用
- ⑤学校跡地の利活用
- ⑥老朽化した校舎の改築と再編の関わり
- ⑦防災拠点施設としての在り方

□再編に関連して出された意見

- ①何年後を見据えて再編を行うかの議論の必要性
- ②亘理中学校区と逢隈中学校区の二つで再編
- ③中学校は2校、小学校は存続
- ④新たな学校を建設しての再編

※4：アンケート調査結果報告会の記録は参考資料として別項に掲載。

5 アンケート調査結果報告会後の審議経過

令和3年12月には、アンケート調査結果報告会で出た保護者や地域の方の意見の共有を行い、学校再編の時期及び方法を考察するための基礎資料として検討を重ねた。

この中で改めて学校再編の時期や方法について検討すべきであるという意見が大勢を占め、教育委員会事務局の具体的な案の提示を求めた。

6 学校再編の方向性（事務局案）

(1) 中学校の再編を先行して進める。再編の時期は令和9年3月末日とする。

令和9年度以降にいくつかの小中学校で複式学級となる学年があることが予想される。その見通しは令和5年以降になれば分かるが、それを見越しての時期では遅くなる。生徒数が少ない中学校では十分な部活動やチーム編成ができないこと、学級数の関係で正規の教職員が配置されない状況となっていること、検討委員会で議論された解決しなければならない課題への対応、再編に係る準備、そして建物の状況等を勘案すれば令和9年3月末日が最短で最適だと判断する。

(2) 小学校の再編は、年度別児童数推計値により「複式学級が避けられない学校」が予測された時点で、再編の時期や方法について、検討委員会での議論が必要と考える。

(3) 中学校再編の内容

①学校数について

生徒数規模で県内を見渡すと、概ね適正校数は2～3校となる。10年、20年の時間軸で学校再編後の再再編をなくすため（将来的に持続可能な教育環境の命題）には、2校が適当であると判断する。

年度別生徒数推計値によると、令和9年度の各中学校の生徒数の推計値は、亘理中学校396名、荒浜中学校53名、吉田中学校50名、逢隈中学校284名で合計783名となっている。

亘理中学校は780名（全学年7学級）の生徒を受け入れる校舎・体育館の能力はぎりぎり保持するが、通学の足となるスクールバスの運行を考慮するとハードルは高い。

新たな校舎の建設は財政的に厳しい状況であり、既存の校舎を活用すると、亘理中学校と逢隈中学校の2校に集約することがベターな選択と考える。荒浜中学校及び吉田中学校は普通教室の数から困難である。

亘理中学校と逢隈中学校の校舎を活用し、2校に生徒を集約する。

②中学校再編の組合せ

町内を2校の中学校で再編すると組合せは次のようになる。

- | | | |
|----|-------------------|-------------------|
| ①案 | 逢隈中学校・荒浜中学校 | 亘理中学校・吉田中学校 |
| ②案 | 逢隈中学校・吉田中学校 | 亘理中学校・荒浜中学校 |
| ③案 | 逢隈中学校 | 亘理中学校・荒浜中学校・吉田中学校 |
| ④案 | 逢隈中学校・荒浜中学校・吉田中学校 | 亘理中学校 |

通学時間で考えると②案の組合せは難しく、③案については、年度別生徒数推計値による令和3年度生徒数を基にした比較で見ると、令和9年度における亘理中学校の生徒数は△12.0%、逢隈中学校では+2.2%となっている。しかし、逢隈小学校の児童数が令和6年度以降マイナスとなり、令和9年度でその幅は△11.7%と大きくなっていく。これが数年後には逢隈中学校にも反映され、逢隈中学校も確実にマイナスとなっていくことが予想されるので、逢隈中学校を単独で存続させるのは効果的ではない。④案では逢隈中学校の教室数により難しい。

つまり組合せで考えると①案が妥当となる。

亘理中学校の校舎を活用し、亘理中学校と吉田中学校を再編する。
逢隈中学校の校舎を活用し、逢隈中学校と荒浜中学校を再編する。

7 検討委員会の意見

教育委員会事務局が提示した中学校再編の内容は概ね賛同を得ることができた。これまで持続可能な教育環境の在り方を検討してきた本委員会での中学校再編については、現在の亘理中学校・逢隈中学校の校舎を活用し、中学校を2校に再編とするという意見で共通理解が図られた。一方で、校舎の老朽化に伴い、財源を確保し現地にこだわらず安全性の高い校舎を新築して中学校を2校に再編や、中学校再編に際しては、生徒の通学の足の確保が不可欠であることから、詳細なスクールバスの運行計画を示すことも必要であるとの中学校2校再編に付帯する意見もあった。

また、小学校再編については、複式学級が避けられない学校が予測された時点で改めて検討が必要と思われる。ただし、複式学級となっても教育の質が良ければ現状維持でもよいとの意見もあることを確認した。

なお、検討委員会において、小・中学校の再編を進めるにあたっての解決すべき事項が議論されている。以下に示す点については、特に配慮が必要である。

- ①地域や保護者への説明と理解
- ②児童生徒の通学の足の確保（スクールバスの運行）、通学時の防犯対策
- ③子ども一人ひとりへの対応と魅力ある学校づくり
- ④放課後児童クラブの利用や習い事をしている児童生徒への配慮
- ⑤学校跡地の利活用
- ⑥老朽化した校舎の改築と学校再編の関わり
- ⑦防災拠点施設としての在り方
- ⑧学校施設の耐震診断の必要性
- ⑨教育投資の必要性に対する意識改革

8 最後に

この報告書は、本町の小・中学校の置かれた状況や、少子化がいつそう進む将来を見据えて検討し内容をまとめたものである。地域にとって学校の存在は非常に大きく、学校を再編するということがどのような影響を与えるかは計り知れないものがあり、できることなら地域のシンボルとして残したい、子どもたちの元気な声が聞こえなくなるのは寂しいなどの考えもある。一方、小・中学校のうちに経験してほしい集団のルール、多くの友人や先生との人間関係、多様な部活動などは一定規模の学校でなければ困難なところがある。このようなことから地域や各小・中学校によって抱える課題は異なるものの、地理的条件や将来に向けての少子化の動向なども十分に踏まえて、学校としての機能を発揮できる持続可能な教育環境をつくることは必要である。

今後においては、本町の将来にわたる発展を目指し、定住人口の増加及び児童生徒の増加に向けた、町の住みやすい様々な計画・施策が必要と考えられ、教育への投資、子育てしやすい町のPRも重要な取組である。

本検討委員会では20年、30年先の将来を見据え、中学校再編についての意見を取りまとめた。小学校の再編は、複式学級が避けられない学校が予測された時点で議論の必要性があると判断する。併せて小・中学校の再編を進める場合の解決すべき事項を提起している。学校再編に関しては多様な意見があることから、それぞれの意見にも十分耳を傾けることが求められる。報告書提出後における、教育委員会や町においては、多様な意見を十分に配慮した、より熟慮した学校再編案が練られることを期待する。

参 考 资 料

亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会の審議経過

令和1年度第1回 亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和2年2月13日（木）午後7時

議事内容：□教育環境整備計画検討委員会について

□小規模特認校制度について

□今後の児童生徒数の推移について

◆令和1年度第1回検討委員会の概要

○本町の小規模特認校の現状を報告。小規模特認校のメリット、デメリットについて状況に応じて適切な対応をしていくべきとの意見。

○文部科学省で示している「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」の説明。

○本町の児童生徒数の推移について確認。

令和2年度第1回 亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和2年8月6日（木）午後7時

議事内容：□教育環境整備計画検討委員会について

□年度別・地区別児童生徒数の推移について

□宮城県内の小中学校の状況について

□町立学校の児童生徒数の推計値について

◆令和2年度第1回検討委員会の概要

検討委員会で確認されたこと

○本委員会の在り方について

本委員会は「方針を決定」するのではなく、様々な資料を基に、町内の教育環境の在り方を議論し、それを報告書でまとめる役割を担う。議論の結果を一つにしぼる必要はない。報告書の提出を受け、町が将来にわたる教育環境の在り方の方針を決めていく。

○報告書の作成の目安を令和4年3月末とする。（変更の可能性もあり）

令和2年度第2回 亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和2年10月16日（金）午後7時

議事内容：□まちづくり計画について

□学校再編の先行事例について

□報告書作成までのロードマップについて

◆令和2年度第2回検討委員会の概要

○まちづくり計画について

第5次互理町総合発展計画、互理町震災復興計画図及び都市計画用途地域図を用いて説明。令和2年度第1回会議時に意見があった、大規模区画整理や宅地開発等は現在のところ計画されていない旨説明。

○学校再編の先行事例について

山元町、角田市の取り組みについて情報共有

○報告書作成までのロードマップ案について

<報告書作成までのロードマップ>

- ・あくまでも現時点でのロードマップ案である。報告書作成の令和4年3月末をゴールにしたもので、必要に応じて後ろにずれこむ場合もある。
- ・月1回の委員会開催を原則とするが、必要に応じて月2回まで増える場合がある。

報告書作成までのロードマップ

開催予定	議事内容
令和2年9月	<input type="checkbox"/> 先行事例の確認 <input type="checkbox"/> 報告書作成までのロードマップ案の検討
令和2年10月	<input type="checkbox"/> 報告書作成までのロードマップ案の確認 <input type="checkbox"/> アンケート調査の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象 ・調査方法 ・調査内容 ・調査のまとめの方法
令和2年11月	<input type="checkbox"/> アンケート調査の詳細検討 <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象 ・調査方法 ・調査内容 ・調査のまとめの方法
令和2年12月	<input type="checkbox"/> アンケート調査の実施
令和3年3月	<input type="checkbox"/> アンケート調査結果の報告
令和3年4月	<input type="checkbox"/> アンケート調査結果の検討
令和3年5月	<input type="checkbox"/> アンケート調査結果の検討
令和3年6月	<input type="checkbox"/> アンケート調査結果と検討結果の公表方法の協議
令和3年7月	<input type="checkbox"/> 地区別報告会の開催計画の協議
令和3年8月	<input type="checkbox"/> 地区毎の調査報告会の開催（2ヶ所）
令和3年9月	<input type="checkbox"/> 地区毎の調査報告会の開催（2ヶ所）
令和3年10月	<input type="checkbox"/> 報告会のまとめ検討
令和3年11月	<input type="checkbox"/> 報告会のまとめ検討
令和3年12月	<input type="checkbox"/> 報告書検討
令和4年1月	<input type="checkbox"/> 報告書検討
令和4年2月	<input type="checkbox"/> 報告書検討・確認
令和4年3月	<input type="checkbox"/> 報告書検討・確認

令和2年度第3回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和2年11月27日（金）午後7時

議事内容：□アンケート調査の検討

・調査対象 ・調査方法 ・調査内容 ・調査のまとめの方法

◆令和2年度第3回検討委員会の概要

○アンケート案の文言の修正を行い、会議後においてもアンケート案についての意見を集約。
令和2年12月10日までにアンケート調査内容を確定し、令和3年1月5日にアンケート調査用紙を配布。

教育環境の整備に関するアンケート調査内容の確定

確定日：令和2年12月10日（木）

内容：□アンケート調査内容の確定

・調査対象 ・調査方法 ・調査内容 ・調査のまとめの方法

教育環境の整備に関するアンケート調査の実施

期間：令和3年1月5日（火）～1月20日（水）

内容：□アンケート調査の実施

・調査対象 ①.町立小中学校に在籍する児童生徒の保護者
②.①以外で巨理町に住所を有する児童生徒の保護者
③.未就学児の保護者

令和3年度第1回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和3年4月23日（金）午後7時

議事内容：□アンケートの集計結果について

・アンケート調査結果の概要説明
・アンケート調査結果に対する意見聴取

◆令和3年度第1回検討委員会の概要

・アンケート調査結果の概要説明。
・各委員よりアンケート調査結果に対する意見を伺う。

○会議時の意見

・いつかはやってくる減少の件で統廃合がやってくるイメージ。
・クラスが減っていないのでピンときていない方もいる。
・このままでいい方々への説明責任は必要。
・これから未来を作っていく子ども達をどう育てていくか、ぶれないようにしていくことが必要。

- ・フリーに書いている内容が非常に重要。(魅力のあるまちづくり・安心して通学できる環境づくりなど)
- ・まちづくりを考えながら教育環境の整備も考えるべきではないか。
- ・何回も統廃合ではなくて、小中一貫校で建てた方がいいのでは。
- ・各地域の中で学校の独自性を出して教育活動を長年続けてこられた巨理の風土がある。それを踏まえ、数字の裏にあるものを探る必要がある。
- ・学校に登校できない子どももいるようなので、そういう子どももイメージしながら気楽に登校できるようになればいい。
- ・学校は学力向上のためにあるので、学校の質を守られる施策を考えたい。
- ・教職員の工夫や意識で短所を長所にしていくことも大事。
- ・近隣では既に実施しているので、ある程度アンケートに沿って進めるべきか。
- ・再編統合で不都合や不便を感じる人をどうケアするか、意図的にどう配慮するかが町、教育委員会としては大事。
- ・再編統合に関して半数以上が進めるべきという意見も大事にしていきたいし、少数意見も大事であると反面では思うところ。
- ・子どもにとってより良い学びを保障することが大きな目的。
- ・子ども達は同じ環境で同じ勉強するのが平等だと思う。時間はかかると思うが整備していかなければならない。
- ・児童生徒の安全な通学を心配している人が沢山いる。絶対条件としてスクールバス、安全な運行の保障が必要。
- ・自由に書いた意見が非常に重要。選別してまとめれば方向性がみえると思う。
- ・小さい学校、大きい学校の長所短所に関して、例えば、大きい学校は目が届かないかという、逆に教員の人数も多いのでチームで子どもを見ることができる。
- ・小さい学校は統廃合に進むという思いがあると同時に、そのままでもいいと思う方もいる。その方々の説得も難しいという印象。
- ・少ない学校でも2～3学級必要というイメージはあるようだ。
- ・少ない所は知らんということにならないように。
- ・少人数の良さはあるし、現在のままがいい方も30%いる。それをどういうふうにかというところもある。
- ・色々な意見が出たために結果としてばらけた印象がある。
- ・親が楽しんでいる行事があるのでアンケートしてはどうか。
- ・人口減少の中で統廃合は目に見えている。当然やるという前提において、いろんな意見を検討し巨理町独自のものでもいいと思う。
- ・数字が見えてきて考えが少しずつ分かってきた。
- ・数字に表れない少数派の方々の意見も大事。
- ・数字的なまとめではなく、フリーの内容を吟味する必要があるのでは。学校統廃合も含めて、小中学校の在り方みたいなものが要望されている事項として重点を置きたい
- ・選ばざるを得なくて統廃合に半分がいるが、そのままがいいが30%いる。

- ・多数の意見も重要だし少数の意見も重要。
- ・多様な考えに触れられるかどうかについては、小さい学校はフットワークが良いので外部や地域と連携でき、視野が広まるという面もある。
- ・大変劣悪なトイレについて記載があった。平等に授業を受けられる環境整備が必要。
- ・町に住みたい、生活したいというまちづくりが必要。
- ・統廃合する場合は中期的（5年から9年）が多かった。回答した方の子どもは卒業後ということになる。当面はいじらないでほしいということか。
- ・統廃合というよりは、まちづくり・他からの移動など最初に考えた方が良いのでは。
- ・統廃合となると保護者の送迎が出てくる。保護者の負担が増えるので慎重に検討が必要。
- ・統廃合や学区再編となった場合、そのままでもいい30%の方を納得させるのが非常に大変。
- ・物事を考えるにあたり前提条件の議論が必要。
- ・保護者の方がどう思っているのか参考になった。
- ・法律の規制を取り払って独自のことも考えて欲しい。
- ・亘理の将来、未来にとって今の状況は問題ないのかを考える必要があるのではないか。

令和3年度第2回 亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和3年5月21日（金）午後7時

議事内容：□アンケート調査結果と分析及び考察について

◆令和3年度第2回検討委員会の概要

○調査結果を基に町が存続するための持続可能な教育環境に対する意見集約

- ・1クラス20人～30人程度が理想。
- ・学校はランドマークであり防災拠点である。保護者、地域の方々の話を聞いて決めたい。
- ・建設する場所によって、そこに集まる人数、通学の手段の検討。
- ・再編統合のメリットをしっかりと伝えることが重要。保護者が不安に思っている事をどうするか町側の対応をしっかりと伝える。
- ・子どもの意見を大事にしたい。
- ・集団に馴染みにくい子どもをどうするか検討必要。
- ・小学校・中学校ともに早急に統廃合して、適正な学校数にすべき。
- ・中学校の部活動は、吉田中、荒浜中は、選択できないような実情があり、他の学校と合同で行うという現状がある。改善してやりたい事が出来る様な形になればいい。
- ・中学校は2校で十分。小学校は存続させる。
- ・統合、再編した場合に出てくるデメリットを洗い出して、子どもたち、保護者の負担にならない事の検討。
- ・統廃合するにあたり、何年後を見据えるのか、児童生徒数を何人と見据えるのか定めないと、いつまでも平行線のままでいくと感じる。
- ・統廃合となればスクールバスは必要。
- ・用地確保して建設し、どこからも通いやすいような形になるのが理想。

・互理中学校区と逢隈中学校区の二つでよい。荒浜小・荒浜中は逢隈へ、吉田小・吉田中、長瀬小は互理へ。

令和3年度 第3回 互理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和3年6月24日（木）午後7時

議事内容：□地区ごとのアンケート結果報告会の計画（案）について

◆令和3年度第3回検討委員会の概要

- アンケート結果報告会の日程等の確定
- 教育環境整備計画検討委員会の公表する意見の確認
- アンケート結果報告会で使用する資料の確認

令和3年度 第4回 互理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和3年7月29日（木）午後7時

議事内容：□地区ごとのアンケート結果報告会の計画（案）について

◆令和3年度第4回検討委員会の概要

- アンケート結果報告会開催に係る広報活動
- 意見聴取の方法
- アンケート結果報告会で使用する資料の確認

教育環境の整備に関するアンケート調査結果報告会

開催日時：令和3年10月 8日（金）午後7時 互理中学校体育館

令和3年10月15日（金）午後7時 逢隈中学校体育館

令和3年10月20日（金）午後7時 農村環境改善センター

令和3年10月29日（金）午後7時 荒浜小学校体育館

内 容：□アンケート調査結果の報告

□互理町立小中学校教育環境整備計画検討委員会の意見の公表

□意見聴取

令和3年度 第5回 互理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和3年12月1日（水）午後7時

議事内容：□アンケート結果報告会の内容の共有について

□検討委員会委員の公表と審議内容の公表について

□報告会を受けての検討委員会の意見の見直しについて

□今後の検討委員会の方向性の検討について

◆令和3年度第5回検討委員会の概要

- 各会場の意見聴取内容及び意見提出用紙による意見内容の確認

- 委員名簿について公表し、審議内容については審議結果のみの公表とする。
- 検討委員会の意見については変更なし。
- 今後のスケジュール、事務局の計画案などの提示

令和3年度第6回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和4年1月27日（木）午後7時

議事内容：検討委員会の審議状況の公表について

教育環境整備計画の方向性（事務局案）について

◆令和3年度第6回検討委員会の概要

- これまでの審議状況について公表することとし、令和4年2月1日にホームページで公開する。
- 事務局より学校再編の時期及び方法を考察するための基礎資料として、①学校別児童生徒数（令和9年度推計）②児童生徒数見込み（令和3年度との比較）③県内市町村の児童生徒数、学校数等の状況を提示。
- 小中学校の教育環境整備計画の方向性について、事務局案として説明。次回会議に意見を聴取する。

令和3年度第7回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和4年3月4日（金）午後7時

議事内容：教育環境整備計画の方向性（事務局案）について

◆令和3年度第6回検討委員会の概要

- 第6回検討委員会時に事務局が示した教育環境整備計画の方向性について各委員より意見を聴取。
- 次回会議（令和4年4月22日）前に報告書案を送付することとし、報告書案についての意見を聴取する。

令和4年度第1回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和4年4月22日（金）午後7時

議事内容：報告書案に対する意見について

◆令和4年度第1回検討委員会の概要

- 本日の会議内容と今後の予定説明
- 修正報告書の確認
- 修正報告書に対する意見
- 次回会議の確認

令和4年度 第2回 巨理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

開催日時：令和4年5月27日（金）午後7時

議事内容：巨理町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書の提出

◆令和4年度第2回検討委員会の概要

○巨理町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書の提出

○報告書受領後の教育委員会のスケジュールについて

アンケート調査結果報告会資料

亘理町立小・中学校教育環境
整備計画検討委員会
アンケート調査結果と分析及び考察

令和8年度までの「巨理町人口推計値」「児童生徒数の推移」

(1) 巨理町の総人口・及び0歳から15歳の人口の推計値

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総人口推計値	32,894人	31,046人	29,004人	26,834人	24,502人	22,154人
0歳から15歳の人口推計値	3,824人	3,416人	3,036人	2,647人	2,304人	1,997人

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年度推計）」より

(2) 巨理町立学校の学校別児童生徒数の推移（全学年合計）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
巨理小学校	667人	655人	630人	633人	618人	613人	592人
荒浜小学校	94人	94人	86人	96人	85人	81人	72人
吉田小学校	90人	90人	87人	79人	70人	62人	62人
長瀬小学校	139人	120人	111人	103人	93人	89人	83人
逢隈小学校	585人	587人	590人	569人	550人	534人	513人
高屋小学校	65人	62人	56人	50人	52人	43人	40人
巨理中学校	432人	452人	433人	422人	398人	384人	383人
荒浜中学校	60人	58人	61人	48人	50人	44人	49人
吉田中学校	89人	93人	98人	84人	70人	63人	55人
逢隈中学校	278人	277人	296人	300人	316人	298人	299人

巨理町住民基本台帳より

(3) 令和4年から令和8年における巨理町立学校の学校別・学年別児童生徒数の推移

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年			
巨理小1年生	98人	99人	95人	96人	82人	逢隈小1年生	110人	81人	83人	71人	84人			
	2年生	122人	98人	99人	95人		96人	2年生	84人	110人	81人	83人	71人	
	3年生	103人	122人	98人	99人		95人	3年生	105人	84人	110人	81人	83人	
	4年生	101人	103人	122人	98人		99人	4年生	87人	105人	84人	110人	81人	
	5年生	110人	101人	103人	122人		98人	5年生	102人	87人	105人	84人	110人	
	6年生	96人	110人	101人	103人		122人	6年生	102人	102人	87人	105人	84人	
荒浜小1年生	10人	19人	10人	9人	5人	高屋小1年生	3人	6人	9人	5人	7人			
	2年生	19人	10人	19人	10人		9人	2年生	10人	3人	6人	9人	5人	
	3年生	14人	19人	10人	19人		10人	3年生	10人	10人	3人	6人	9人	
	4年生	13人	14人	19人	10人		19人	4年生	14人	10人	10人	3人	6人	
	5年生	21人	13人	14人	19人		10人	5年生	7人	14人	10人	10人	3人	
	6年生	9人	21人	13人	14人		19人	6年生	12人	7人	14人	10人	10人	
吉田小1年生	11人	9人	8人	10人	9人	巨理中1年生	143人	121人	134人	129人	120人			
	2年生	15人	11人	9人	8人		10人	2年生	158人	143人	121人	134人	129人	
	3年生	9人	15人	11人	9人		8人	3年生	132人	158人	143人	121人	134人	
	4年生	18人	9人	15人	11人		9人	荒浜中1年生	19人	10人	21人	13人	15人	
	5年生	17人	18人	9人	15人		11人		2年生	19人	19人	10人	21人	13人
	6年生	17人	17人	18人	9人		15人		3年生	23人	19人	19人	10人	21人
長瀬小1年生	18人	13人	12人	16人	7人	吉田中1年生	27人	21人	22人	20人	13人			
	2年生	17人	18人	13人	12人		16人	2年生	36人	27人	21人	22人	20人	
	3年生	13人	17人	18人	13人		12人	3年生	35人	36人	27人	21人	22人	
	4年生	20人	13人	17人	18人	13人	逢隈中1年生	109人	105人	102人	91人	106人		
	5年生	22人	20人	13人	17人	18人		2年生	86人	109人	105人	102人	91人	
	6年生	21人	22人	20人	13人	17人		3年生	101人	86人	109人	105人	102人	

巨理町住民基本台帳より

教育環境整備計画検討委員会アンケート調査結果と分析及び考察

<アンケート調査等の概要>

調査期間：令和3年1月5日～1月20日

調査対象者：①町立小中学校に在籍する児童生徒の保護者の方々

②①以外で亘理町に住民票を有する児童生徒の保護者の方々

③未就学児の保護者の方々

計 4,034人

回収率： 2,985人回収 回収率 74.0%

<本稿に係る共通理解項目>

ブロック：各小学校未就学児童の保護者（令和2年度）「（亘未）（荒未）（吉未）（長未）（逢未）（高未）」の計6ブロック，各小学校に在籍している児童の保護者（令和2年度）「（亘籍）（荒籍）（吉籍）（長籍）（逢籍）（高籍）」の計6ブロック，各中学校の保護者（令和2年度）「（亘中）（荒中）（吉中）（逢中）」の計4ブロック。合計16ブロックの意味である。

保護者：本調査の対象となった保護者全員のことである。

I アンケート調査の結果

1 望ましい学級数

16のいずれのブロックでも，【1学年複数学級の学年編制】が望ましいと回答している。2～3学級編制，4～5学級編制と区分を分けなければ，8割から9割の保護者がそれを望ましいと回答している。また，小学校においても中学校においても，2～3学級編制をより望ましいと回答している。

小学校の望ましい学級編制について，最も高い割合を示したのは，吉田小学校未就学のブロックで，2～3の学級編制が望ましいと回答した割合は83%となっている。

中学校の望ましい学級編制において，最も高い割合を示したのは，荒浜小学校未就学のブロックで，2～3の学級編制が望ましいと回答した割合は83%となっている。

2 人数（児童生徒数・学級数）の多い学校の良い点

4つのブロックを除いて，残り12のブロックで選択された項目は，

- 切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である。
- 人間関係の幅が広がる。
- 大勢で様々な活動ができる。

の3項目である。この中で最も選択された割合が高いのが，【人間関係の幅が広がる】である。保護者にとって，子どもの人間関係（友達関係）に敏感になっていることがうかがえる。

3 人数（児童生徒数・学級数）の多い学校の良くない点

1 6のブロックいずれも次の3項目が高い割合で選択されている。

- 問題が生じた場合教師が気付かない。
- 細かい指導が行き届きにくい。
- 一人一人の活躍の場が少ない。

この中でも、【問題が生じた場合教師が気付かない】と【細かい指導が行き届きにくい】の2つの項目の選択の割合が高くなっている。

4 人数（児童生徒数・学級数）の少ない学校の良い点

1 6ブロック中1 5ブロックが同じ3項目を選択している割合が高い。

- 先生が目が行き届きやすくきめ細やかな指導（個別指導）がしやすい。
- 全員で団結や協力がしやすい。
- 個々の活動の場が増え、責任感が育てやすい。

この3項目の中で選択される割合が高かったのは【先生が目が行き届きやすく、きめ細やかな指導がしやすい】である。

5 人数（児童生徒数・学級数）の少ない学校の良くない点

1 2ブロックで同じ3項目を選択する割合が高かった。

- 友達関係がいつも同じで友人間に序列ができる。
- 多様な考え方に触れる機会が少ない。
- PTA活動において保護者への負担が大きい。

この3項目の中で、【友達関係がいつも同じ】という項目と【PTAに関わる保護者の負担】の項目は、同程度で選択されている。

6 学級数や学級の人数が減ることの影響

この設問はブロックでの選択にばらつきが見られた。9ブロックは以下の項目を高い割合で選択している。

- 一人一人が担う部分が多くなるため、工夫・協力し合うことを学び、やりがいや責任感が生まれることが期待できる。
- 子どもの人数が減ることで、かえって一人一人の個性や特性に応じたきめ細やかで丁寧な指導が期待できる。
- 人間関係が固定化・序列化する恐れや、学級の中で人間関係が破綻した場合、学級編制による回避ができないことが不安である。

この3項目は同程度の割合で選択されている。

単学級編制の中学校では、【団体競技の種類・内容が制限されることが不安である】の項目の選択が高くなっている。荒浜小学校在籍及び長瀬小学校在籍の2つブロックでも同じ傾向にある。

7 児童数減少に伴う今後の対応

選択項目は4つである。この中で【学校を再編・統合し適正な児童数を確保する】項目を選択した割合が半数を超えるのは10ブロックで、特に高い割合を示したのは、吉田小未就学ブロック（72%）、吉田中学校ブロック（65%）である。

一方、【現状のままで良い】と回答した割合はおよそ34%である。最も高いのは、荒浜小学校在籍ブロックの53%である。最も低いのは長瀬小学校在籍ブロックの21%である。

その他の意見の中には、【一学級当たりの人数を減らして複数学級編制をする】【学区の見直し】を記入する保護者が多く見られた。

8 児童数減少にあっても現在の学校数のままでよい理由（現状のままと回答した保護者対象）

16ブロックすべてにおいて【不都合はない】の項目の選択割合が高い。また、【地域の協力が得やすく郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動の展開】も比較的選択の割合が高い。

9 小学校の再編・統合の目途（小学校の再編・統合を選択した保護者対象）

【2～4年】、【5～9年】の項目の選択の割合にそれほど差は見られない。一方、亘理小学校の2つのブロックと逢隈小学校の2つのブロックは、いずれも【2～4年】の項目を選択する割合が20%台である。【2～4年】の項目の選択率が高かったのは長瀬小学校未就学ブロックの70%である。

10 生徒数減少に伴う今後の対応

約53%の割合で【学校の再編・統合】を選択している。特にこの割合が高かったのは、長瀬小学校ブロック（特に在籍ブロックは72%）と吉田中学校ブロック（78%）である。16ブロック中4ブロックが【学校再編・統合】の項目の選択割合が50%に届いていない。

一方、【現在のままで良い】との回答割合は約29%である。

その他の意見としては、【一学級の人数を減らして学級数の確保】【特色を持たせて選択できるようにする】【学区の見直し】等がある。

11 生徒数減少にあっても現在の学校数のままでよい理由（現状のままと回答した保護者対象）

16ブロックすべてにおいて【不都合はない】の項目の選択割合が高い。小学校に見られた【地域の協力が得やすく郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動の展開】の選択割合は、小学校に比べて低くなっている。また、【複式になっても学び合う活動はできる】の項目の選択割合は低くなっている。

1 2 中学校の再編・統合の目途（中学校の再編・統合を選択した保護者対象）

【2～4年】がおよそ39%、【5～9年】がおよそ45%と、小学校の再編・統合の時期よりも明らかに差がみられる。ここでも長瀬小学校の2つのブロックと吉田中学校ブロックは【2～4年】の項目の選択割合が高くなっている。特に長瀬小学校未就学ブロックは72%と非常に高い。

1 3 学校の適正規模・適正配置に係る配慮事項

16ブロック中9ブロックでは3つの項目の選択率が高い。

- 適正な児童生徒数・学級数の確保
- 児童生徒の通学とその安全の確保
- 小中学校9年間を見通した一貫教育の推進

特に児童生徒の通学とその安全の項目を選択した割合は、いずれのブロックでも40%以上の選択率で、保護者の関心がここにあることがうかがわれる。

【小中学校9年間を見通した一貫教育の推進】と同様に選択の割合が高かったが【校舎の施設整備】で6ブロックが一貫教育の推進と入れ替わっている。

Ⅱ アンケート調査結果の分析

- ① 保護者が考える望ましい一学年での学級数は、その数は別にして一学年複数学級である。これは小学校、中学校の別を問わない。
- ② 保護者は一学年複数学級の学校の良さとして、子どもの人間関係の幅が広がることと捉えている。一方で、教師の目が自分の子どもを含め一人一人に届きにくく、問題把握に時間がかかることや細やかな指導が行き届かないことを懸念している。
- ③ 保護者は一学年一学級の学校（一学級の数も少ない学級）の良さとして、教師の目の届きやすさや、きめ細やかな指導の実現を挙げている。一方、友達関係が限られること、そしてPTA活動の負担が大きいことを欠点として挙げている。
- ④ 児童生徒数や学級数の減少の問題として、自分の子どもに対する細やかな指導の可能性というプラスの面の評価と、子どもたちの人間関係の固定化・序列化とその回避というマイナス面の評価を同時にしている。
- ⑤ 現状の学校数か再編・統廃合かについて、小学校では「統合・再編＞現状のまま＞学区再編成等その他」の順番となっている。望ましいのは一学年複数学級の学校ではあり、児童数減少は避けられない局面であるけれども、現状のままで良いとする保護者が一定割合存在する。
- ⑥ 中学校においても「再編・統合＞現状のまま＞学区再編成等その他」の順番になっている。しかしその様相は小学校とは違っている。再編・統合の理由として「団体競技の種類・内容が制限されることが不安である」と挙げている。荒浜中学校ブロックと吉田中学校ブロック、及び荒浜小学校の2つのブロックと長瀬小学校の2つのブロックではこの傾向が如実に表れている。
- ⑦ 再編・統合を進める場合の留意点は、何といたっても通学のための足の確保であり、これに保護者の負担を伴わない取組が必要になる。

Ⅲ 保護者コメントの分類

※ 件数は、全ての自由意見の中で内容が同じと考えられるものをまとめたものである。
ブロックの表示はその意見が記載されていたブロックを表す。

① 小学校（中学校も併せて）における一つの学年の学級数に係る自由記述

- 25～30人程度で学級編制をする。一学級の人数を減らす。少人数の方が良い。
16件（亘未）（亘籍）（荒籍）（吉籍）（逢未）（逢籍）（高未）（亘中）（逢中）
- 児童生徒数により学級編制をする。 8件
（亘籍）（逢未）（逢籍）（高籍）（亘中）（荒中）（逢中）
- 学級数よりも一クラス当たりの児童生徒数が重要だ。学級数は気にならない。 6件
（亘籍）（長籍）（高未）（高籍）（亘中）
- 一学年一学級以外なら良い。 2件（逢籍）（亘中）
- 適切な学級数の基準は難しい。望ましい基準はない。 2件（荒中）（吉中）
- 地域に合った学級編制をする。 1件（高未）

② 一定規模（人数の多い）学校の「よい」と感じる点（小・中一緒）に係る自由記述

- 中学校にあっては部活動の選択肢が多い。 7件（亘未）（長籍）（逢籍）（亘中）（逢中）
- 人間関係、いじめ、合わない子ども等の時にクラスを離すことができる。 4件
（亘未）（逢籍）（逢中）
- 多様な考え（多様な人等）に触れ社会性を身に付けられる。 3件
（亘未）（逢未）（逢籍）
- 自分が少人数の中で過ごしてきたので人数の多い学校の良さが分からない。 3件
（荒籍）
- 人数の多い学校（高校等）に進学したときに順応しやすい 2件（亘未）（亘籍）
- PTAに係る親の負担が少ない。 2件（亘籍）（亘中）
- 教員の数が多くなり多くの教員の教育力が発揮される。 1件（亘未）
- 子どもの行動の悪目立ちがなく個性を大勢の中で受け入れやすくなる。 2件
（亘未）（亘籍）
- 児童生徒の多い少ないではなく教員によるところが大きい。 1件（逢未）

③ 一定規模（人数の多い）学校の「よくない」と感じる点（小・中一緒）に係る自由記述

- いじめが起りやすい（起りやすそう）。いじめを見つけにくい。 12件
（亘籍）（荒未）（荒籍）（逢未）（逢籍）（高未）（荒中）（逢中）
- PTA役員がなかなか決まらない。決まっても責任をもってやらない。 4件
（逢未）（亘中）（逢中）
- 教師の業務量が増えて個別の指導（生徒指導等）ができない。 3件
（亘籍）（逢籍）（亘中）

- 授業に遅れている子どもが放置される。学習のフォローができない。 2件
(巨未) (逢中)
- 行事の時の場所取りや駐車場が大変。 2件 (巨籍) (巨中)
- 言葉遣いの悪い子, 乱暴な子, 思いやりのない子が増えて悪影響を及ぼす。 1件
(逢籍)
- 教師がいじめを見ないふりができる。 1件 (逢籍)

④ 小規模 (人数の少ない) 学校の「よい」と感じる点 (小・中一緒) に係る自由記述

- 縦割り活動でリーダーシップを育むことができる。 3件 (長籍) (高籍) (巨中)
- 教員に余裕ができその余裕が子どもの指導に生かされる。 2件 (巨未) (高籍)
- 人間関係問題が大きくなりづらい。多勢に無勢になりにくい。 2件 (逢籍) (逢中)
- 図書館, 体育館, 校庭の利用に余裕がある。 1件 (巨未)
- いじめが見つかりやすい。 1件 (逢籍)

⑤ 小規模 (人数の少ない) 学校の「よくない」と感じる点 (小・中一緒) に係る自由記述

- 部活動の種類が少ない。スポ少でやっていた種目の部活動がない。 6件
(荒籍) (長未) (長籍) (逢籍) (荒中)
- 人数の多い学校 (高校) に進学した時に大変。 4件 (巨未) (巨籍) (逢籍) (巨中)
- 友達関係が心配。同性が少ない。苦手な子とずっと一緒。 3件 (吉未) (長籍) (巨中)
- いじめが発生しやすい。友達に引きずられる。かえってわがまになる。 3件
(巨未) (逢籍) (巨中)
- 悪目立ちする。生徒指導の問題を抱える子がいると評判が下がる。 3件
(吉籍) (高籍) (逢中)
- 教師や校長の方針に影響を受けやすくなる。 2件 (巨未) (長籍)
- PTA活動が大変。 2件 (吉籍) (長未)
- 活躍の場は増えるがかえって協調性が育たない。 1件 (逢未)
- 集団スポーツができない。 1件 (高籍)

⑥ 学級数や学級の人数が減ることの影響 (小・中一緒) に係る自由記述

- 部活動の選択肢が減る。やりたい部活動ができない。 5件
(巨未) (長籍) (逢籍) (巨中) (逢中)
- 人間関係の硬直化。人間関係の幅が薄い。コミュニケーションが育たない。 5件
(巨未) (巨中) (逢未) (逢中)
- 複式学級が不安。専門の教員が配置されない。 3件 (巨中) (荒中) (吉中)
- 学級が少人数になり, 逆に良いことだ。 3件 (荒籍) (高未) (高籍)
- デメリットが多い。問題の固定化・できる子のみ目立つ。 3件 (巨未) (長未) (逢籍)
- 学区の見直し。スクールバス。行きたい学校へ通学。 3件 (巨籍) (逢中)

- 人数の少ない学校の維持が大変。 2件（逢未）（逢中）
- 生徒数が減れば教師も減り結果的に手薄になる。 2件（巨未）（逢未）
- 行事が見直しを求められる。種目が限られる。 2件（長籍）（逢籍）
- 子供会の維持が大変。 1件（逢籍）
- 生徒の減少等は問題ではない。教員のスキルの問題。 1件（逢籍）
- 人数が少ない学校は周囲からかわいそうに見られる。 1件（長未）
- 児童生徒数が減ることは自治体の魅力が低いから。 1件（巨未）

⑦ 小学校の児童数が今後さらに減少するがどのようにすべきかに係る自由記述

- 子育てしやすい環境づくり。定住人口増加への取組。 10件（巨未）（荒未）（荒籍）
- 学区を再編統合し適切な児童数にする。インフラ整備して再編・統合する。 8件
（巨未）（荒未）（吉未）（荒籍）（巨中）（逢中）
- 極端に減らなければ現在のままで良い。 小学校は難しい。 5件
（長未）（逢籍）（逢中）
- 町内であれば行きたい学校に行けるようにする。 4件（巨未）（逢未）（逢籍）（吉中）
- 統合になると通学するのが大変になる。 3件（巨籍）（逢籍）
- 地区ごとに1校。児童数が多い学校を分散させる。 2件（逢未）（逢中）
- 一学級当たりの人数を減らす。 2件（巨未）

⑧ 適正な規模を確保できない場合でも現在の学校数（小学校）でよいに係る自由記述

- 統合すると通学の不安・不便。送り迎えが大変になる。 23件
（巨未）（荒未）（長未）（逢未）（逢籍）（巨中）
- 小学校は地域とのつながりが深い。地域から子どもがいなくなる。 2件（巨未）
- 現在の学区のままなら統合賛成。 2件（長未）
- 受け皿として小規模特認校は必要である。 2件（高籍）（巨中）
- 小規模は目が届いていい。 1件（吉中）
- 母校が廃校になるのは寂しい。 1件（逢籍）
- 一学級の人数を減らして学級数は減らさない。 1件（逢籍）

⑨ 中学校の児童数が今後さらに減少するがどのようにすべきかに係る自由記述

- 学区の見直し。近い学校に行けるようにする。 8件
（巨籍）（荒未）（荒籍）（吉未）（高籍）（逢中）
- 町内で行きたい学校に行けるようにする。 4件（巨未）（逢籍）（高籍）（逢中）
- 統合すると通学が大変になる。送り迎えが大変。 3件（逢籍）（吉中）
- 一学級の人数を減らして学級数は減らさない。 3件（巨未）（巨籍）
- 生徒数確保のために統合すべき。インフラ整備をして統合する。 3件
（荒籍）（吉未）（巨中）
- 部活動だけは合同チームで。 1件（荒籍）

- 生徒数を均一にしてほしい。 1件（逢籍）
- 子育てしやすい環境をつくる。 1件（巨未）
- 極端に減らなければ現状で。 1件（逢籍）
- 人数の問題ではない。学習の質の問題。 1件（逢籍）

⑩ 適正な規模を確保できない場合でも現在の学校数（中学校）でよいに係る自由記述

- 統合すると通学が大変。通学が心配。事故が増える。 15件
(巨未) (巨籍) (荒籍) (吉籍) (長籍) (逢籍) (逢中)
- 特色を残すなら現在のまま。極端に減らなければ現在のまま。 2件（逢籍）（高籍）
- 人数が増えるときめ細やか指導ができない。いじめが増える。 2件（逢籍）（高籍）
- 学区を再編し均一の人数にする。巨理中を中心部にもってくる。 2件（高未）（巨中）
- 荒中は建替えしたばかりでもったいない。 1件（巨中）
- どの学校にも行けるようにする。 1件（荒籍）
- 部活動だけは合同チームで。 1件（吉中）
- 中学校は小学校に比べて学校が多いわけではない。 1件（巨籍）
- 小規模特認校を利用したい。 1件（巨未）

⑪ 学校の適性規模・適正配置で配慮すべき事項に係る自由記述

- 統廃合を進めていく。複数学級が必要。教師の数が確保できなければ統廃合。 6件
(巨未) (逢未) (逢籍) (逢中)
- 学区の見直し。距離の近い学校へ。学校を選択できるように。 4件
(荒未) (吉未) (逢未) (逢籍)
- 質の高い教員の確保。 3件（逢籍）
- 生徒数に偏りがありすぎる。 2件（高籍）（巨中）
- 一学級20人で学級編制をする。 2件（逢籍）
- 小規模特認校は残す。 2件（巨未）（逢中）
- 子どもと大人の負担感がないように。子どものことを考えて検討する。 2件
(巨未) (吉中)
- 現状で。 1件（吉中）

⑫ 巨理町立学校の再編に係る自由記述

※自由意見欄には多くの意見が寄せられた。傾向をつかむために、便宜上いくつかのブロックに分けた。

○町づくりに関する記述

- ・子育てしやすい町づくりのビジョンを。人口拡大の取組を。 19件 8ブロック
- ・20年も前から分かっていたこと。すぐにでも検討しよい結果を。 3件
(巨中) (吉中)

- ・もっと早くから取り組むべき問題だった。 1件 (巨中)
- ・今回の調査で初めて問題意識を持った。 1件 (長籍)
- ・そもそも震災の時に考えるべき問題ではなかったか。 1件 (巨未)
- ・町の考え方を早く示してほしい。 1件 (長未)

○再編・統合（賛成・仕方がない・条件付き）に係る記述

- ・統合ならばスクールバスの措置が必要。 49件 14ブロック
- ・統合は仕方がない。様々なバックアップが必要。 13件 (逢籍) (巨中) (逢中)
- ・十分な議論の下に早期に推進すべきである。 7件 (長未) (巨中) (吉中) (逢中)
- ・いずれ統合しなければならない時がくる。 4件 (長未) (逢未) (逢中)
- ・学校が多すぎる。すぐに統合を。クラス替えができないのは困る。 4件
(巨中) (長籍)
- ・安心して学べる環境を。そのための統合は仕方がない。 4件 (巨未) (巨籍) (荒籍)
- ・部活を考えると早期の再編を望む。 4件 (長未) (長籍) (巨中) (吉中)
- ・人口減及び財政面から統廃合は必要である。 3件 (吉中)
- ・他市町では進めている。巨理は遅れている。統合の方向で。 3件
(長未) (吉未) (巨中)
- ・PTAの負担を考えると統廃合を進める。 3件 (長籍) (吉未) (吉籍)
- ・地域の子どもが少ない。統合は必要である。 2件 (巨未) (荒未)
- ・小学校は地域に。中学校は統合を希望する。 2件 (逢籍) (荒中)
- ・部活動は大きい学校に負ける。統廃合は必要である。 2件 (巨籍) (長籍)
- ・安全な通学が可能ならば統合・再編も仕方がない。 2件 (長籍) (逢未)
- ・統廃合は仕方がないが廃校等の活用や町づくりに期待。 2件 (逢未) (荒中)
- ・学校再編・統合は課題を出し合って進めていくべき。 2件 (高籍) (巨中)
- ・習い事の関係で引っ越してきた。今の学区で統合を。 2件 (逢未)
- ・他市町を参考に慎重に進めてほしい。 1件 (巨中)
- ・高校はどこも大規模。再編統合を望む。 1件 (長籍)
- ・教員の負担軽減や財政面からも再編は急ぐべきだ。 1件 (逢籍)
- ・人口減や施設の老朽化を考えると統合は仕方がない。 1件 (逢籍)
- ・施設のランニングコストを考えると統合がベスト。 1件 (巨中)
- ・友達関係の序列は規模に関係しない。統廃合して安心な学校を。 1件 (逢未)
- ・生徒数のバランスを見て統廃合を。 1件 (巨中)
- ・人数が少ない現状から統合すべきで、まずは中学校を2校にする。 1件 (巨中)
- ・時代に合った再編又は改革を大胆に実行することを望む。 1件 (高籍)
- ・新しい学校と古い学校が顕在している。統合は待ったなし。 1件 (巨中)
- ・ある程度同じ規模になるなら再編・統合に取り組んでほしい。 1件 (巨中)
- ・通学距離が長い子どもがいる。再編を。 1件 (吉籍)
- ・統廃合を行うことで教員の配置がしっかりできる。 1件 (逢中)

- ・統合して学校の施設維持経費を減らして他に回す。 1件（巨未）

○学区の再編に係る意見

- ・学区の見直しと再編を。 17件
（巨未）（荒未）（吉未）（長籍）（逢籍）（高籍）（巨中）（荒中）（吉中）
- ・学区の再編は必要だが、いじめ等があった場合は柔軟に。 5件
（巨未）（長籍）（逢未）（逢籍）
- ・再編及び統合は通学が心配される。親の負担が増す。 2件（高籍）（巨中）
- ・学区再編によるある程度の人数確保は必要である。 2件（吉籍）（長未）
- ・学区がおかしい。学区の見直しから始めるべき。 1件（長未）
- ・学区の再編は通学等で負担が生じる。簡単に進めないでほしい。 1件（巨未）
- ・再編して学力が向上し学校生活が充実すればよい。 1件（逢籍）
- ・中学校の通学区域の見直しは早急に実施すべき。 1件（逢籍）
- ・再編は必要だが学校数はそのまま。 1件（吉中）
- ・小学校はいいが中学校は学区の再編を。 1件（逢中）
- ・小学校と中学校の学区は同じにする。 1件（逢中）
- ・震災後、校舎を建て直す必要があったのか。学区の再編を。 1件（吉中）

○部活動に係る意見

- ・部活動に差がありすぎる。好きな部活動を選べない。 12件
（長未）（長籍）（巨中）（荒中）（吉中）
- ・今の複数の学校での合同部活動をなんとかしてほしい。 3件（荒籍）（吉籍）（長籍）
- ・統合して子どもに部活動の選択肢を与えたい。 2件（荒籍）（吉籍）
- ・部活動の減少で体力が心配される。 1件（長未）
- ・あまりにも人数が減ると部活動ができないことが心配される。 1件（巨未）
- ・やりたくもない部活動に全員加入はおかしい。 1件（逢籍）

○町内いずれの学校にでも行けるようにすることに係る意見

- ・町内どこの学校にも行くことができるようにする。 15件
（巨未）（吉籍）（逢未）（巨中）（逢中）（逢籍）（高未）（吉中）
- ・特色のある学校づくりを進めて学校を選ぶ。 1件（逢籍）
- ・共働きなので職場に近い学校を選択したい。 1件（巨未）

○小中一貫校に係る意見

- ・町内に小中一貫校を。 12件
（巨未）（巨籍）（荒未）（逢籍）（高籍）（巨中）（荒中）（逢中）
- ・役場近くに小中一貫校ができるといい。 2件（高未）

○学級の人数を減らす・少なくすることに係る意見

- ・一学級の人数を減らすべき。余裕のある環境に。 6件（巨未）（巨籍）（荒籍）（逢未）
- ・一クラス30人以上では教員の目が行き届かない。 2件（逢未）（逢籍）
- ・一クラス10人以下になる小学校は統合を。 2件（吉未）
- ・学校間の交流を多くすれば少人数はカバーできる。 2件（荒籍）（長未）
- ・再編に当たっては町独自で25人以下の学級編制を。 1件（巨中）
- ・一学級の児童生徒数が減ればきめ細やかな指導ができる。 1件（逢籍）
- ・町独自の学級編制等独自色を打ち出す。 1件（巨籍）

○偏りや人数に違いがあることに係る意見

- ・学校によって人数（一学級の人数を含む）に違いがありすぎる。 6件
（巨未）（吉未）（長籍）（逢未）（巨中）
- ・各学校平均的な人数で学ぶことができるように。 6件（巨未）（巨籍）（巨中）
- ・中心部とそれ以外で偏りが大きすぎる。中心部から分散させる。 2件（吉籍）（長未）
- ・亘理 荒浜 吉田 逢隈の4地区を平等に。 2件（吉中）
- ・人数の多いところから少ないところへ分散させる。 1件（吉未）
- ・地域によって差がありすぎる。これが学力や生徒指導に影響。 1件（長未）
- ・同じ税金を払っているのに学童保育等差がありすぎる。 1件（逢籍）
- ・偏りがあり不公平。部活動もその通り。 1件（逢籍）
- ・亘理中と逢隈中を分散させて平等に。 1件（吉中）
- ・差がありすぎる。小さい学校は統合を考えてもよい。 1件（吉中）
- ・生徒数を分散させて少人数で指導。 1件（長未）
- ・同じような生徒数の規模にする。 1件（逢未）

○学校再編・統合に係る具体的な提案の記述

- ・小学校は地域密着なのでそのまま。中学校は偏りがないように調整。 2件
（荒籍）（長籍）
- ・小中学校が各地区1校は必要ない。 1件（巨中）
- ・再編するにしても一カ所に集中するのは良くない。 1件（巨籍）
- ・児童数の少ない学校を統合すべき。 1件（荒未）
- ・吉田と長瀬，荒浜と高屋を統合してバスを。 1件（逢未）
- ・逢隈（北部），亘理と吉田（南部），長瀬と荒浜（沿岸部）の3つにしてバスを。 1件
（逢籍）
- ・小学校4校，中学校3校にして30人学級編制で。 1件（逢未）
- ・小学校は2校，中学校も2校にして小中一貫教育を。 1件（逢籍）
- ・高屋小は荒浜小との統合もいいと考える。 1件（高未）
- ・高屋＋荒浜＋長瀬，荒中＋吉中がいいのではないか。 1件（荒中）

- ・吉田小と長瀬小が吉田中へ，荒浜小と高屋小が荒浜中へ。 1件（吉中）
- ・小中半分までがベストである。 1件（巨中）

○学校再編・統合に係る問題点の具体的な記述

- ・放課後の過ごし方が心配だ。居場所づくりを進めてほしい 3件（巨未）
- ・再編統合すると通学が心配になる。 3件（逢未）（逢籍）（巨中）
- ・再編により人数が増えれば不登校が多くなる。 2件（高籍）（巨中）
- ・統廃合により地域との関連が希薄になるのが心配だ。 2件（荒未）（吉籍）
- ・統廃合による子どもの心のケアが必要だ。 2件（荒籍）
- ・子どもが満足していれば現状でいい。 2件（荒籍）
- ・しがらみのある地区がある。子どものことを考えて再編を。 1件（吉籍）
- ・震災後に戻った。学校がなくなれば子育てが不便になる。 1件（巨未）
- ・新しく建て直した沿岸部の学校はどうするのか。 1件（巨籍）
- ・統廃合するなら放課後児童クラブの充実も考えてほしい。 1件（巨籍）
- ・統廃合でスクールバスになると思う。運動不足が心配だ。 1件（荒未）
- ・人数が増えればいじめが増えるのではないかな。 1件（荒籍）
- ・人数が増えれば教師の目が行き届かないのではないかな。 1件（荒籍）
- ・学校再編は地区の再編と切り離せない。 1件（巨中）
- ・年配方の仲たがいで再編統合ができないことは避けるべき。 1件（吉中）
- ・統合するとなじめない子どもがでてくるのではないかな。 1件（逢未）
- ・統合して廃校すると増えた時に困る。今の状況で多いところを分散させる。 1件（逢未）
- ・もともと人数が多いところに他の学校からの合流はいかななものかな。 1件（巨中）

○今後の進め方に対する記述

- ・納得のいく説明をお願いしたい。公表をお願いしたい。 2件（巨未）
- ・大人の都合ではなく子どものことを考えて慎重に。 2件（巨未）（逢未）
- ・様々な角度から検討を。 2件（巨中）
- ・都市部との学力差も気になる。様々なところから環境整備を。 2件（逢籍）（巨中）
- ・統廃合はどちらでもよいが人間関係や学習に支障が出ないように。 1件（巨籍）
- ・時間をかけて環境整備をしていただきたい。 1件（荒籍）
- ・子どもにとってよい環境づくりを。 1件（逢未）
- ・地域の方と意見交換できる場を作ってほしい。 1件（巨中）
- ・小中9年間で児童生徒に影響が少ないように考えて整備。 1件（逢籍）
- ・コストを明らかにしてくれれば統合の問題も考えやすい。 1件（巨中）
- ・再編で兄弟が別の学校に通うことのないように移行期間を設ける。 1件（巨中）

○少人数の良さに関する記述

- ・新型コロナウイルスに対して小規模の方がよい。 3件（逢未）（逢籍）（亘中）
- ・少人数の方が人として育てていく環境面ではよい。 1件（吉籍）
- ・小規模でも良いと感じている。 1件（逢未）
- ・人数が増えると一人一人に割く時間が減り学力が心配。 1件（逢籍）
- ・コロナが心配だしマンモス校と呼ばれないようにしてほしい。 1件（逢籍）
- ・多少の人数の変更は良いが多くなると大変。ストレスになる。 1件（逢籍）
- ・少人数の方が目が行き届いてよい。 1件（吉中）
- ・人数が多いと何かあったときに手が回らない。 1件（逢中）
- ・複式学級になってもメリットはある。 1件（逢中）

○少人数の良くない点に関する記述

- ・人数が少ないとPTAが大変。 3件（荒中）（吉中）（逢籍）
- ・単学級だと友達関係が変わらず不安。多くの子どもと触れ合える機会を。 2件（吉籍）
- ・教員の数が少ないと免許外指導がある。避けてほしい。 2件（逢籍）（亘中）
- ・ニクラスあればクラス替えができる。 2件（荒中）
- ・高校や社会人になったときに大変。ある程度の人数は必要。 1件（吉籍）
- ・ずっと一クラスだと友達関係の固定化などで不安しかない。 1件（長籍）

○教員の質等に関する記述

- ・教員の質が大切だ。学校教育の充実を。 11件（亘未）（亘籍）（荒籍）（吉未）（逢籍）（高籍）（亘中）（荒中）
- ・学力の向上を期待する。学力が低い。なんとかして。 3件（亘籍）（逢籍）（吉中）
- ・不登校対策や生徒指導の充実を。 2件（逢中）
- ・風通しの良い学校環境を。学校教育の充実を。 2件（亘未）（吉籍）
- ・特別支援教育の充実を。 1件（吉籍）
- ・教育レベルが塾に行かざるを得ない状況。教育レベルの向上を。 1件（逢籍）
- ・LD等通級教室の充実を。 1件（逢籍）
- ・教師と生徒の信頼関係。 1件（高未）
- ・生徒の数でなく学習内容に合った教員の配置を。 1件（亘中）

○現在の学校（学区）の登下校に関する記述

- ・現在も遠くから通学している児童生徒がいる。スクールバスの運行を。 5件（荒未）（逢籍）
- ・現在でも通学に苦勞している児童生徒がいる。 1件（逢未）
- ・通学のためのインフラ整備が必要である。 1件（亘中）
- ・徒歩15分から20分の児童生徒はバスを利用させたい。 1件（荒中）

○施設・設備に関する記述

- ・校舎の老朽化対策（改修）を。トイレの整備を。 13件
(巨末) (巨籍) (逢籍) (巨中) (逢中)
- ・施設は防災拠点となる。閉校したらどうなるのか。 2件 (長籍) (逢籍)
- ・ネットワーク環境を整えて家庭でもできるように。 1件 (高籍)
- ・デジタルの活用。屋内のプール。 1件 (逢籍)
- ・逢隈小・中の体育館の建て直しを。 1件 (逢籍)

○その他の記述

- ・高屋小学校の存続を希望する。 5件 (高籍)
- ・特認校は残してほしい。学区に関係なく通える学校はありがたい。 3件
(逢籍) (高籍)
- ・新しく建替えた学校は意味があるのか。 2件 (巨中)
- ・教員の負担を減らす取組を。 2件 (逢未) (逢籍)
- ・今の現状でクラスに一人の担任では無理。2人体制にする。 2件 (逢籍) (逢中)
- ・巨理中学校の立地が悪い。 2件 (高末) (巨中)
- ・十分な生徒数を見込んで引っ越ししてきた。少人数の学校があってびっくり。 1件
(逢未)
- ・子どもの数が減っているのに子供会加入強制はおかしい。 1件 (吉籍)
- ・特認校はいじめ対応で残してほしい。 1件 (逢籍)
- ・特認校は小中一貫校にすべき。 1件 (逢籍)
- ・学習を個別に教えてくれる制度に。 1件 (逢籍)
- ・学力が第一。学校間でランキングし生徒が選ぶようにしたらいい。 1件 (逢籍)
- ・他の学区から高屋小へ通学できるのにその反対がないのはおかしい。 1件 (高籍)
- ・学校が多すぎる。 1件 (吉中)
- ・統合は必要だが学校独自の文化がなくなる。 1件 (吉中)
- ・心のケアに取り組んでほしい。 1件 (吉中)

IV 主な記述に対する法的制限

(1) 少人数による学級編制・町独自の学級編制・児童生徒数による学級編制

公立義務教育諸学校の学級編制は「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」により学級編制の標準が示されており、これに則って学級編制をするため、25人や30人、地域の実態に応じて等で編制することはできません。

教員の定数（各学校に教員を何人配置できるか）は学級数によって決まっており、指導方法の工夫を図るなど、学校毎の取組によって加配（プラス）されることがあるが、一つの教室に教員2人を担任として配置することは物理的にできません。

通常学級においては、小1及び小2は35人で1学級編制（次年度以降小学校は1学年ずつ35人編制に移行するがそれまでは40人編制）、中学校は1年生が35人編制（宮城県の特例）で、2・3年生は40人編制です。なお、特別支援学級や複式学級の編制基準も別に示されています。

(2) 教員の人数を増やす

教員の人数（定数）は学級数により決まっています。

定数以外に、一つの学級を2つに分けて指導する場合や通級に係る指導等で教員の人数が増えますが、これは加配と呼ばれます。

多くの加配教員がいれば様々な子どもたちに対応することや、きめ細やかな指導が可能になりますが、加配される教員の数は減少傾向にあり、更に目的以外に教員を活用することはできません。傾向として、児童生徒数の多い学校に加配教員が多く配当されています。

(3) 小中一貫校

施設の形態によって小中一貫校は以下のように分けられます。

- ・ 同じ施設（敷地）に小学校と中学校がある。
- ・ 小学校と中学校が隣り合わせにある。
- ・ 小学校と中学校が離れた場所にある。

いずれも、教育目標や教育課程に一貫性を持たせますが、実際的な教育活動には違い（物理的環境による差）が見られます。

- ・ 小中の教員が一体となって教育（授業）を行う。（同じ施設）
- ・ 学校行事等を小中合同で開催する（隣接）
- ・ 連携を図りながら教育活動を推進する（離れた場所）

などになります。

保護者が小中一貫校に抱くイメージは閑上義務教育学校だと思われます。同じ敷地に小・中学校があり、9年間を見通した教育活動の展開…。町内のいずれかの場所に同様の学校を新築するとなると、莫大な経費がかかります。また、児童生徒減少に対する策としては大いに疑問が残るところであります。

本町では、小・中連携事業として、中学校区で授業を見合う、情報交換をする、中学校の教員が小学校に出向いて授業をするなどの取組を行っているところです。

※ 義務教育学校：同一施設の中に、いわゆる小学校と中学校がある形態ですが、小学校6年・中学校3年と区切らず、前期・中期・後期などと分けたり1年生から9年生とで分けたりして教育活動が展開できます。9年間同じ子どもたちと過ごすという側面があります。なお、校長は一人。

(4) 教員の人数を増やす

教員の人数（定数）は学級数により決まっています。

定数以外に、一つの学級を2つに分けて指導する場合や通級に係る指導等で教員の人数が増えますが、これは加配と呼ばれます。

多くの加配教員がいれば様々な子どもたちに対応することが可能になりますが、その数も限られており、更に目的以外に教員を活用することはできません。市町村教育委員会には学校の状況に応じて教員の数を増やす権限はありません。

また、教員免許を所持していなければ授業を行うことはできず、町の会計年度任用職員は教員の補助をする立場にいます。

(5) 行きたい学校に行けるようにする・学校選択制

児童生徒が入学すべき学校は市町村の教育委員会が指定します。（学校教育法施行令第5条第2項）その際、指定が恣意的に行われたり、不公平感を与えたりすることのないように、あらかじめ地域の実情や地理的条件を考慮して通学区域（学区）が決められています。

学校選択制は「自由」「ブロック」「特認校」等の種別があり、本町では高屋小学校と荒浜中学校が特認校としての選択制をとっています。

児童生徒や保護者の希望通りに町内の学校から行きたい学校を選ぶ自由選択性は、既存の学校施設のキャパシティに限りがあることから実施は困難であります。また、いたずらに学校間の競争や不公平感を生み出すことになり、公立学校の目的から大きく逸脱することになります。

いじめや通学距離の問題で指定された学校に通うことが必ずしも保護者の意向に合わない場合は保護者の申し立てにより指定する学校を変更することはできます。

(6) 学校に芸術・文化・スポーツなどの特色をもたせる

教育基本法第5条には、保護する子どもに義務教育として普通教育を受けさせることと普通教育の内容が定められています。普通教育は、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」を内容としています。

普通教育の対義は専門教育となりますが、これは高等学校から実施されるものです。（もちろん普通科の高校では普通教育）

中学校における教育課程（学ぶ教科やその時数）の基準は学習指導要領に示されており、この範囲の中で特色を持たせることはできますが、専門教育を行うことはできません。

(7) 町内の学校の児童生徒数を平準化する

児童生徒数の多い学校から少ない学校へ児童生徒を移して児童生徒数を平準化することは、学校施設のキャパシティの面で実施は不可能であります。下足箱から始まって、普通教室や特別教室の数、トイレや蛇口の数…。もちろん普通教室の大きさも違います。

受け入れるために施設を新しくすることはあまりにも非効率的であり、町全体の児童生徒数の減少に対応するための対策としては非現実的であると考えます。

(8) 人数が多くなるといじめが起こる（起こりやすい）

児童生徒数が多くなるといじめの認知件数が多くなるという報告はありません。学年別では小学校1年生及び2年生のいじめの認知件数が多いことははっきりしています。

子どもの行為をいじめと認知するか否か、報告するかしないかの違いでしかありません。（水を飲むために並んでいたら友達が横から入ってきた：これをいじめと認知して報告するかしないかの違い）

いじめはどの学校のどの学年の子どもたちの中にでも起こりうるということは、全ての学校の教員が認識しているところであり、要はいじめを認知した後の対応であると考えます。

Ⅴ 亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会の意見

1 検討委員会の意見の視点

将来を担う亘理町の子どもたちを育てるための将来的に持続可能な教育環境

2 検討委員会意見


町立学校の再編を進める

3 再編を進めるにあたって解決すべき事項

- ①地域や保護者への説明と理解
- ②児童生徒の通学の足の確保
- ③子ども一人一人への対応と魅力ある学校づくり
- ④放課後児童クラブの利用
- ⑤学校跡地の利活用
- ⑥老朽化した校舎の改築と再編の関わり
- ⑦防災拠点施設としての在り方

4 再編に関連して出された意見

- ①何年後を見据えて再編を行うかの議論の必要性
- ②亘理中学校区と逢隈中学校区の二つで再編
- ③中学校は2校、小学校は存続
- ④新たな学校を建設しての再編



巨理町立小・中学校教育環境
整備計画検討委員会

アンケート結果報告書(数値・グラフ編)

□□□□□□□ アンケート調査等の概要 □□□□□□□

- 1 調査期間 令和3年1月5日～令和3年1月20日
- 2 調査対象者 ①町立小中学校に在籍する児童生徒の保護者の方々
- ②①以外で巨理町に住民票を有する児童生徒の保護者の方々
- ③未就学児の保護者の方々

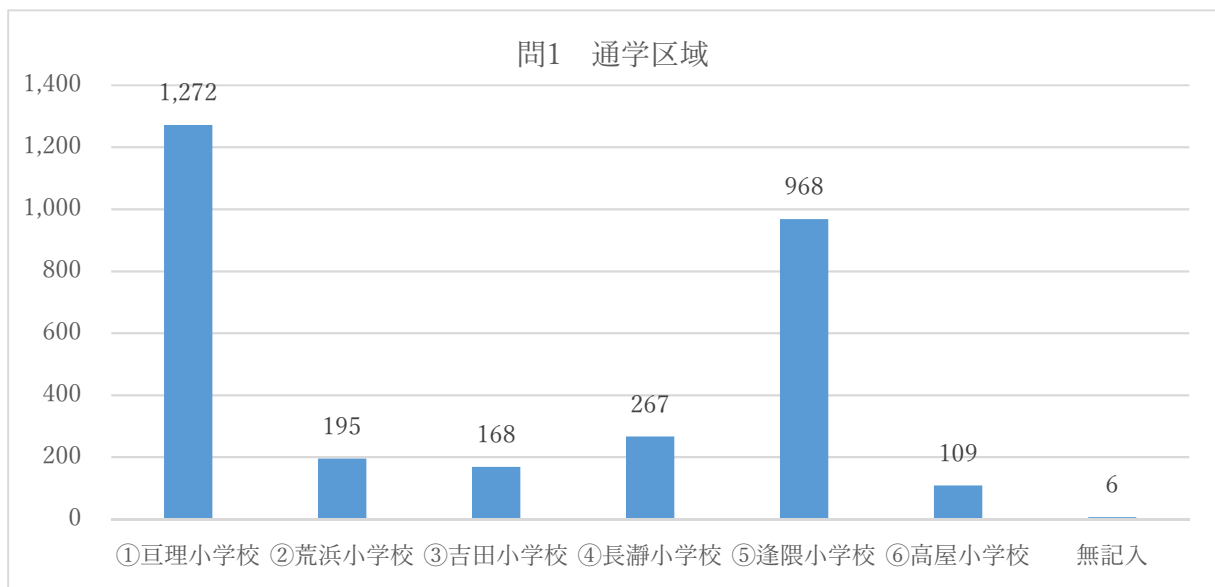
計 4,034人

- 3 回収率 2,985人回収 回収率 74.0%

問1 現在お住まいの住所はどこの小学校区ですか。

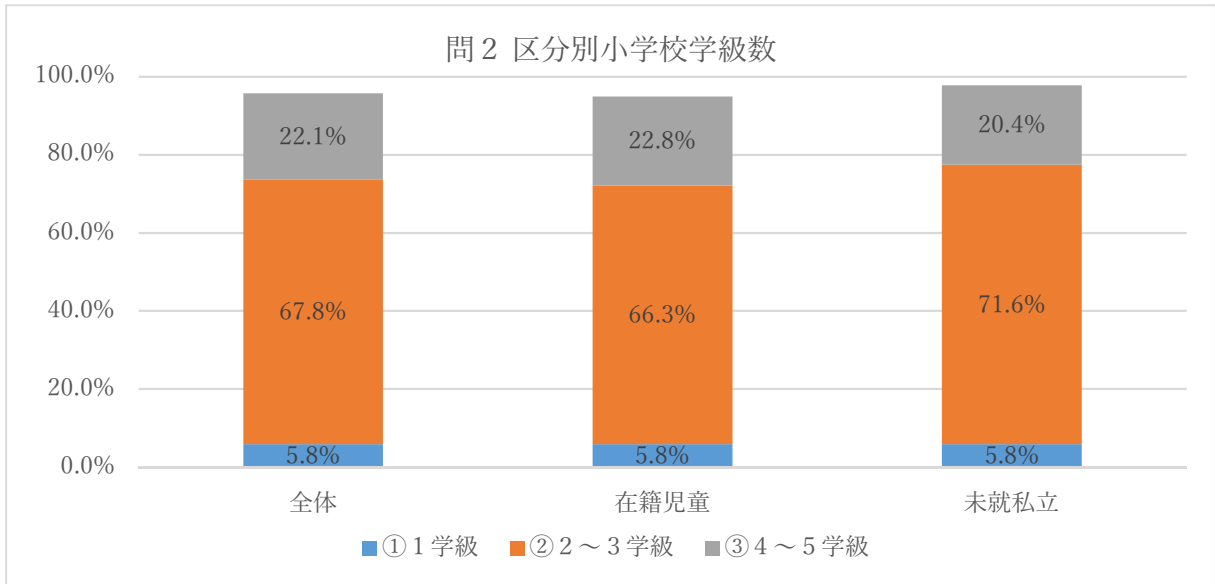
※小規模特認校制度を利用してお子さんが高屋小学校に通学している場合は「高屋小学校区」となります。

①巨理小学校区	1,272 (42.6%)
②荒浜小学校区	195 (6.6%)
③吉田小学校区	168 (5.6%)
④長瀬小学校区	267 (9.0%)
⑤逢隈小学校区	968 (32.4%)
⑥高屋小学校区	109 (3.6%)
無記入	6 (0.2%)



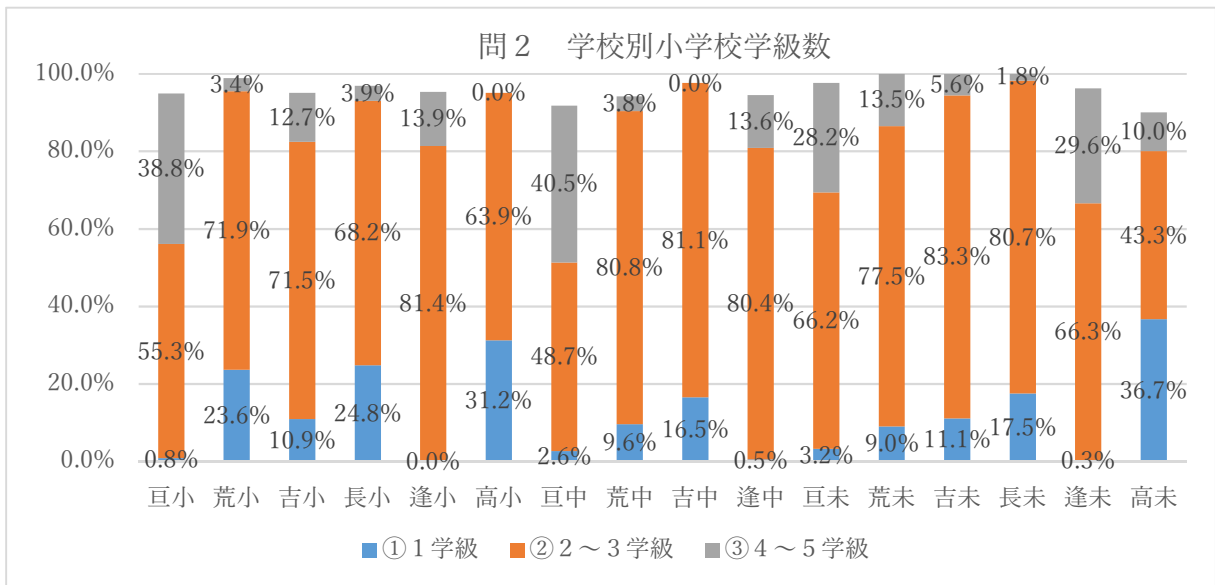
問2 小学校における一つの学年での学級数は、どの程度が望ましいと考えますか。

全 体 ②2～3学級程度・・・67.8%
 ③4～5学級程度・・・22.1%
 ①1学級・・・5.8%
 在籍児童 ②66.3% ③22.8% ①5.8%
 未就私立 ②71.6% ③20.4% ①5.8%



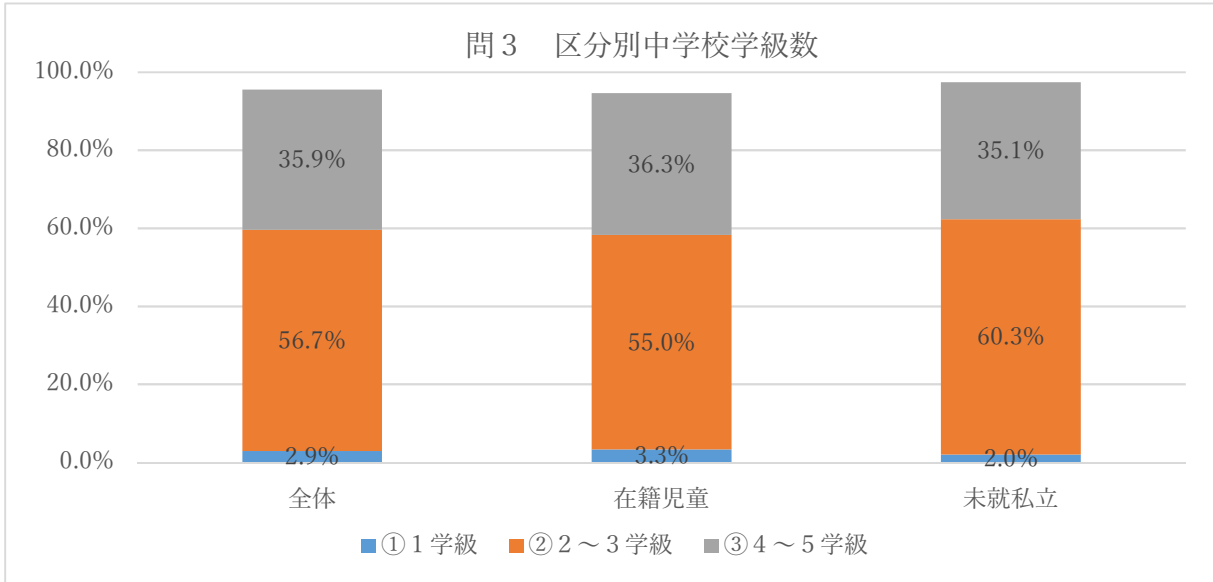
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	②55.3%	③38.8%	①0.8%	荒小	②71.9%	①23.6%	③3.4%
吉小	②71.5%	③12.7%	①10.9%	長小	②68.2%	①24.8%	③3.9%
逢小	②81.4%	③13.9%	①0.0%	高小	②63.9%	①31.2%	③0.0%
亘中	②48.7%	③40.5%	①2.6%	荒中	②80.8%	①9.6%	③3.8%
吉中	②81.1%	①16.5%	③0.0%	逢中	②80.4%	③13.6%	①0.5%
亘未	②66.2%	③28.2%	①3.2%	荒未	②77.5%	③13.5%	①9.0%
吉未	②83.3%	①11.1%	③5.6%	長未	②80.7%	①17.5%	③1.8%
逢未	②66.3%	③29.6%	①0.3%	高未	②43.3%	①36.7%	③10.0%



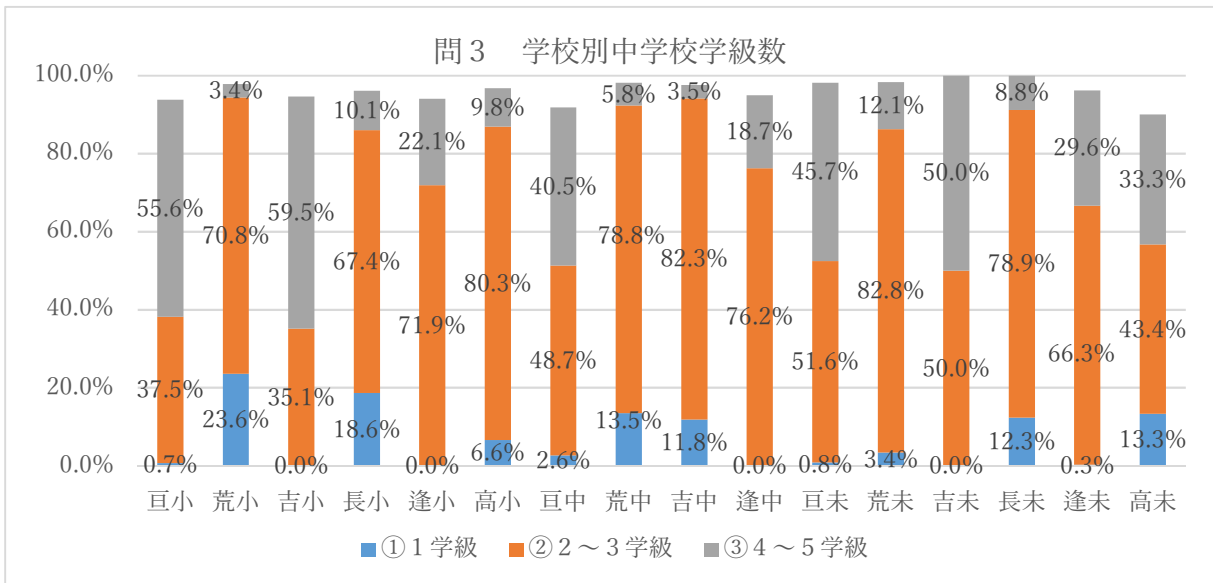
問3 中学校における一つの学年での学級数は、どの程度が望ましいと考えますか。

全 体 ②2～3学級程度・・・56.7%
 ③4～5学級程度・・・35.9%
 ①1学級・・・2.9%
 在籍児童 ②55.0% ③36.3% ①3.3%
 未就私立 ②60.3% ③35.1% ①2.0%



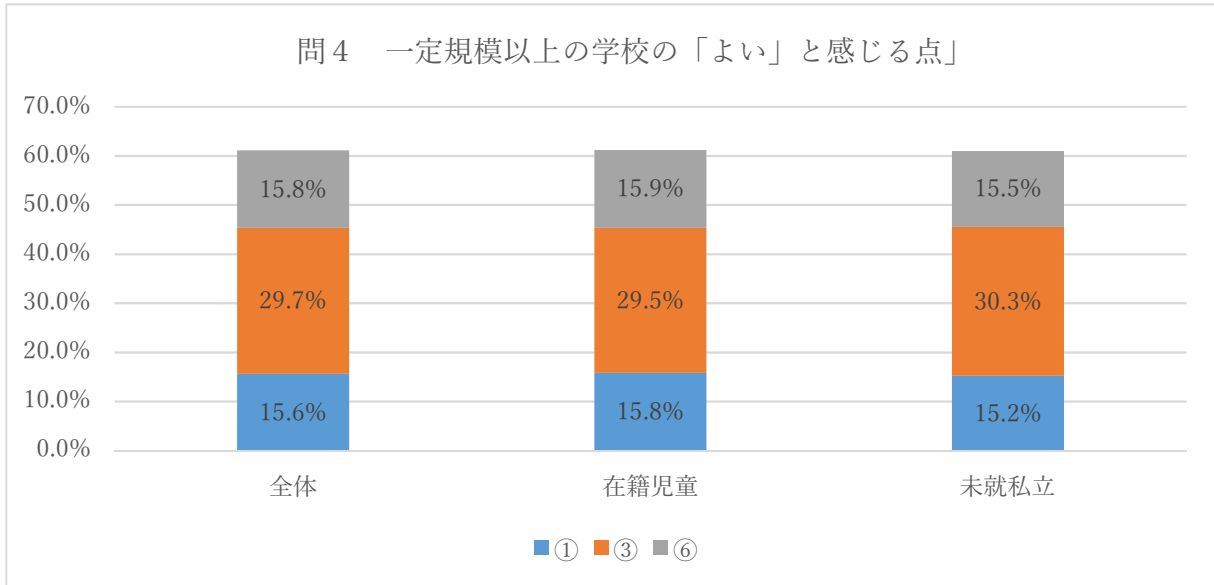
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	③55.6%	②37.5%	①0.7%	荒小	②70.8%	①23.6%	③3.4%
吉小	③59.5%	②35.1%	①0.0%	長小	②67.4%	①18.6%	③10.1%
逢小	②71.9%	③22.1%	①0.0%	高小	②80.3%	③9.8%	①6.6%
亘中	②48.7%	③40.5%	①2.6%	荒中	②78.8%	①13.5%	③5.8%
吉中	②82.3%	①11.8%	③3.5%	逢中	②76.2%	③18.7%	①0.0%
亘未	②51.6%	③45.7%	①0.8%	荒未	②82.8%	③12.1%	①3.4%
吉未	<u>②350.0%</u>		①0.0%	長未	②78.9%	①12.3%	③8.8%
逢未	②66.3%	③29.6%	①0.3%	高未	②43.4%	③33.3%	①13.3%



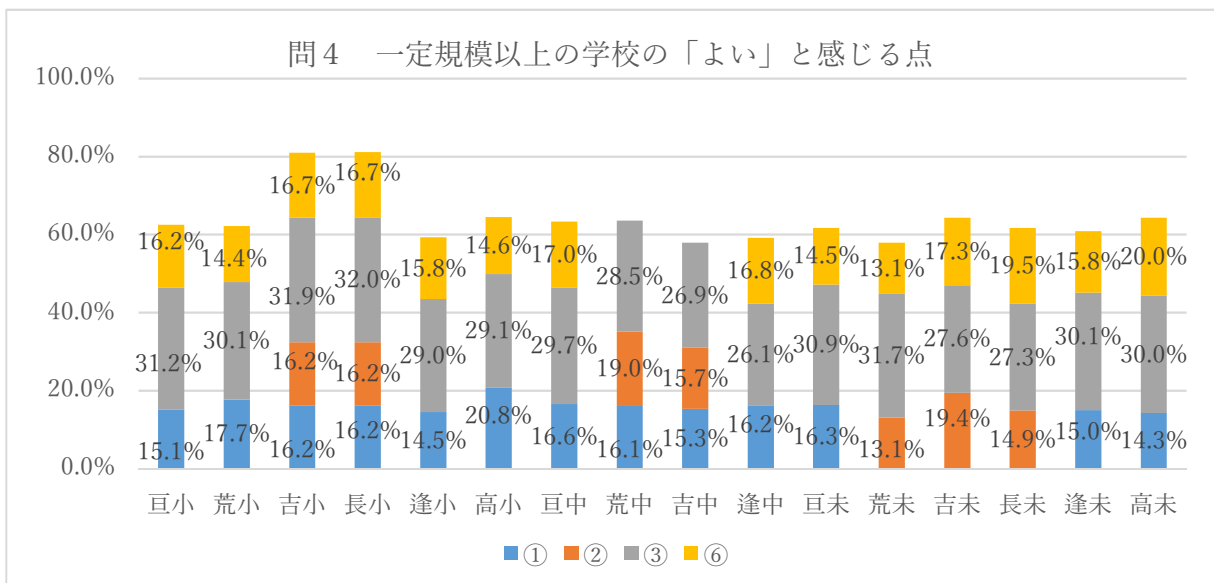
問4 一定規模以上（人数の多い）の学校の「よい」と感じる点（3つ）（上位3位）

- 全 体 ③人間関係の幅が広がる・・・29.7%
 ⑥大勢で様々な活動ができる・・・15.8%
 ①切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である・・・15.6%
- 在籍児童 ③29.5% ⑥15.9% ①15.8%
- 未就私立 ③30.3% ⑥15.5% ①15.2%



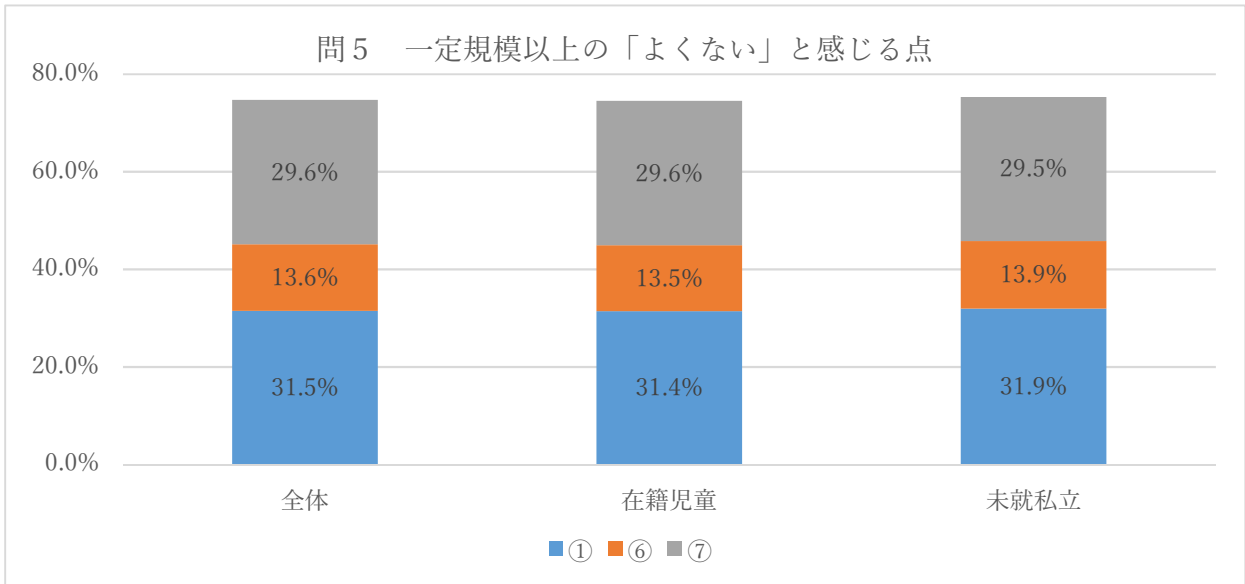
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 巨小 ③31.2% ⑥16.2% ①15.1% | 荒小 ③30.1% ①17.7% ⑥14.4% |
| 吉小 ③31.9% ⑥16.7% <u>①②16.2%</u> | 長小 ③32.0% ⑥16.7% <u>①②16.2%</u> |
| 逢小 ③29.0% ⑥15.8% <u>①14.5%</u> | 高小 ③29.1% ①20.8% ⑥14.6% |
| 巨中 ③29.7% ⑥17.0% ①16.6% | 荒中 ③28.5% ②19.0% ①16.1% |
| 吉中 ③26.9% ②15.7% ①15.3% | 逢中 ③26.1% ⑥16.8% ①16.2% |
| 巨未 ③30.9% ①16.3% ⑥14.5% | 荒未 ③31.7% <u>②⑥13.1%</u> |
| 吉未 ③27.6% ②19.4% ⑥17.3% | 長未 ③27.3% ⑥19.5% ②14.9% |
| 逢未 ③30.1% ⑥15.8% ①15.0% | 高未 ③30.0% ⑥20.0% ①14.3% |



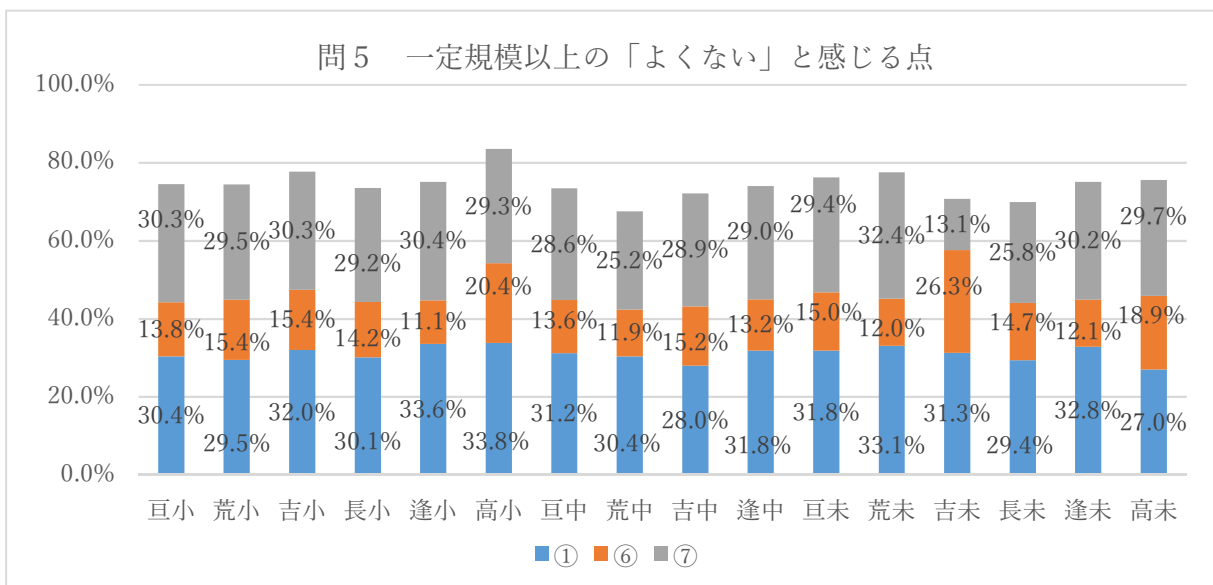
問5 一定規模以上（人数の多い）の学校の「よくない」と感じる点（3つ）（上位3位）

- 全 体 ①問題が生じた場合、教師が気づかない・・・31.5%
 ⑦児童・生徒への細かい指導が行き届きにくい・・・29.6%
 ⑥一人一人の活躍の場が少ない・・・13.6%
- 在籍児童 ①31.4% ⑦29.6% ⑥13.5%
- 未就私立 ①31.9% ⑦29.5% ⑥13.9%



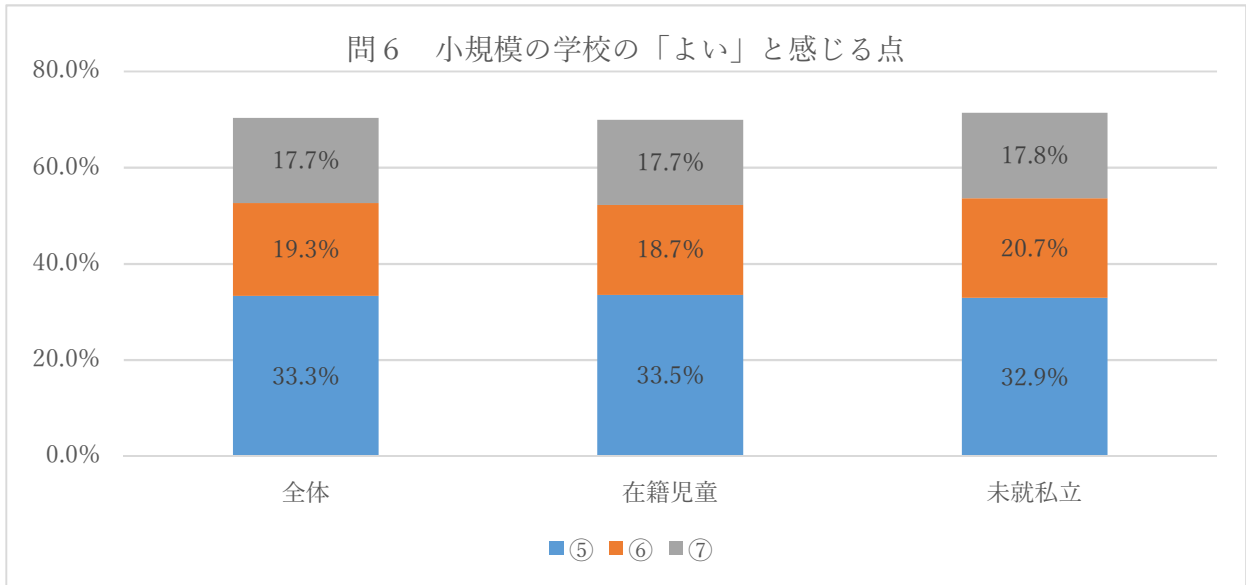
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

巨小	①30.4%	⑦30.3%	⑥13.8%	荒小	<u>①⑦29.5%</u>	⑥15.4%	
吉小	①32.0%	⑦30.3%	⑥15.4%	長小	①30.1%	⑦29.2%	⑥14.2%
逢小	①33.6%	⑦30.4%	⑥11.1%	高小	①33.8%	⑦29.3%	⑥20.4%
巨中	①31.2%	⑦28.6%	⑥13.6%	荒中	①30.4%	⑦25.2%	⑥11.9%
吉中	⑦28.9%	①28.0%	⑥15.2%	逢中	①31.8%	⑦29.0%	⑥13.2%
巨未	①31.8%	⑦29.4%	⑥15.0%	荒未	①33.1%	⑦32.4%	⑥12.0%
吉未	①31.3%	⑥26.3%	⑦13.1%	長未	①29.4%	⑦25.8%	⑥14.7%
逢未	①32.8%	⑦30.2%	⑥12.1%	高未	⑦29.7%	①27.0%	⑥18.9%



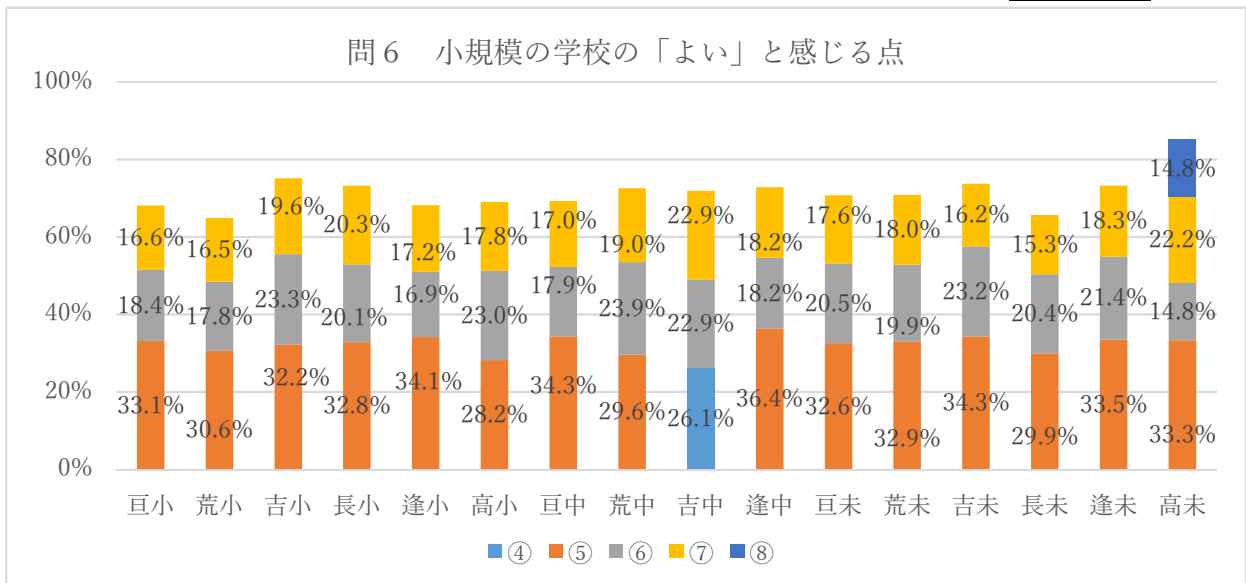
問6 小規模の学校の「よい」と感じる点(3つ) (上位3位)

全 体 ⑤先生の目が届きやすく、きめ細かな指導(個別指導)がしやすい・・・33.3%
 ⑥全員で団結や協力がしやすい・・・・・・・・・・・・・・・・・・19.3%
 ⑦個々の活動の場が増え、責任感が育てやすい・・・・・・・・・・17.7%
 在籍児童 ⑤33.5% ⑥18.7% ⑦17.7%
 未就私立 ⑤32.9% ⑥20.7% ⑦17.8%



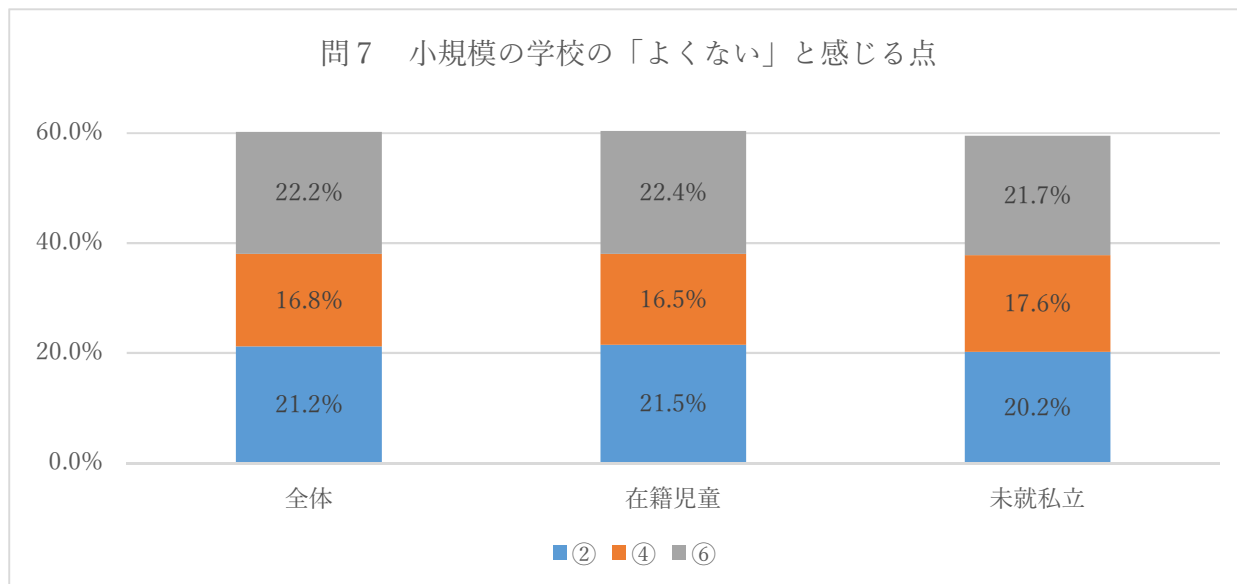
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	⑤33.1%	⑥18.4%	⑦16.6%	荒小	⑤30.6%	⑥17.8%	⑦16.5%
吉小	⑤32.2%	⑥23.3%	⑦19.6%	長小	⑤32.8%	⑦20.3%	⑥20.1%
逢小	⑤34.1%	⑦17.2%	⑥16.9%	高小	⑤28.2%	⑥23.0%	⑦17.8%
亘中	⑤34.3%	⑥17.9%	⑦17.0%	荒中	⑤29.6%	⑥23.9%	⑦19.0%
吉中	④26.1%	<u>⑥⑦22.9%</u>		逢中	⑤36.4%	<u>⑥⑦18.2%</u>	
亘未	⑤32.6%	⑥20.5%	⑦17.6%	荒未	⑤32.9%	⑥19.9%	⑦18.0%
吉未	⑤34.3%	⑥23.2%	⑦16.2%	長未	⑤29.9%	⑥20.4%	⑦15.3%
逢未	⑤33.5%	⑥21.4%	⑦18.3%	高未	⑤33.3%	⑦22.2%	<u>⑥⑧14.8%</u>



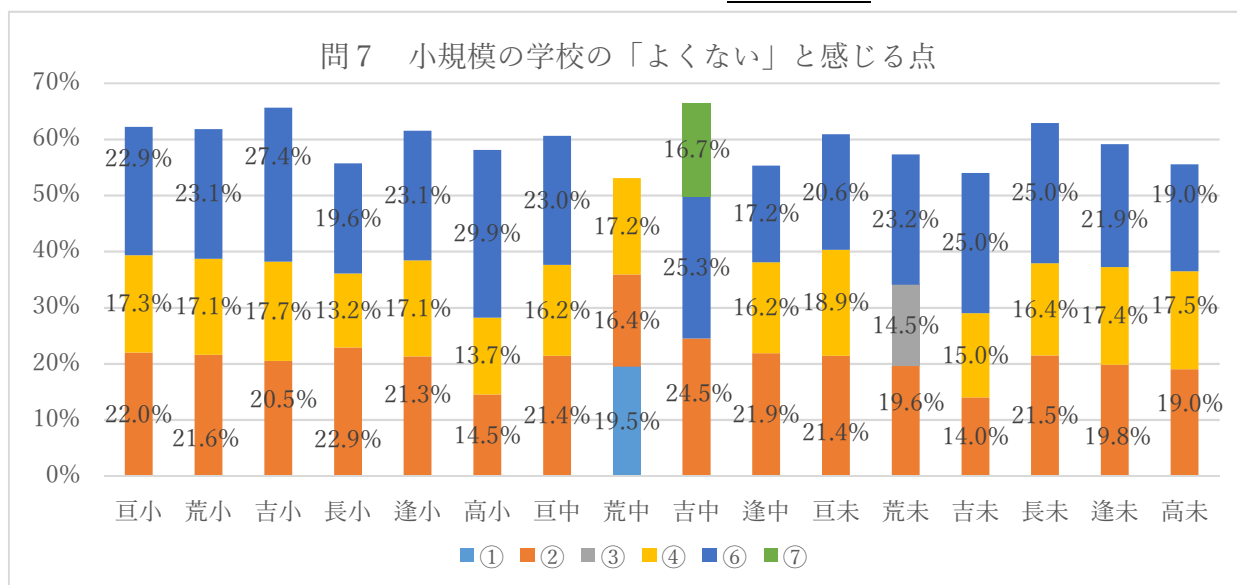
問7 小規模学校の「よくない」と感じる点(3つ) (上位3位)

- 全 体 ⑥P T A活動において、保護者への負担が多い・・・22.2%
 ②友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる・・・21.2%
 ④多様な考えに触れる機会が少ない・・・・・・・・・・16.8%
- 在籍児童 ⑥22.4% ②21.5% ④16.5%
- 未就私立 ⑥21.7% ②20.2% ④17.6%



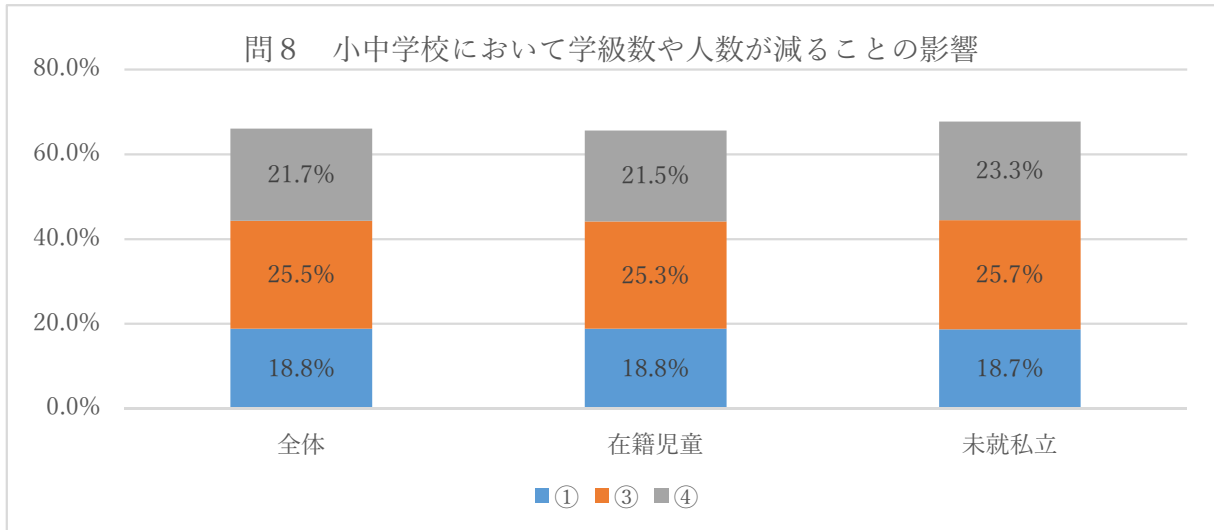
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	⑥22.9%	②22.0%	④17.3%	荒小	⑥23.1%	②21.6%	④17.1%
吉小	⑥27.4%	②20.5%	④17.7%	長小	②22.9%	⑥19.6%	④13.2%
逢小	⑥23.1%	②21.3%	④17.1%	高小	⑥29.9%	②14.5%	④13.7%
亘中	⑥23.0%	②21.4%	④16.2%	荒中	①19.5%	④17.2%	②16.4%
吉中	⑥25.3%	②24.5%	⑦16.7%	逢中	②21.9%	⑥17.2%	④16.2%
亘未	②21.4%	⑥20.6%	④18.9%	荒未	⑥23.2%	②19.6%	③14.5%
吉未	⑥25.0%	④15.0%	②14.0%	長未	⑥25.0%	②21.5%	④16.4%
逢未	⑥21.9%	②19.8%	④17.4%	高未	<u>②⑥19.0%</u>	④17.5%	



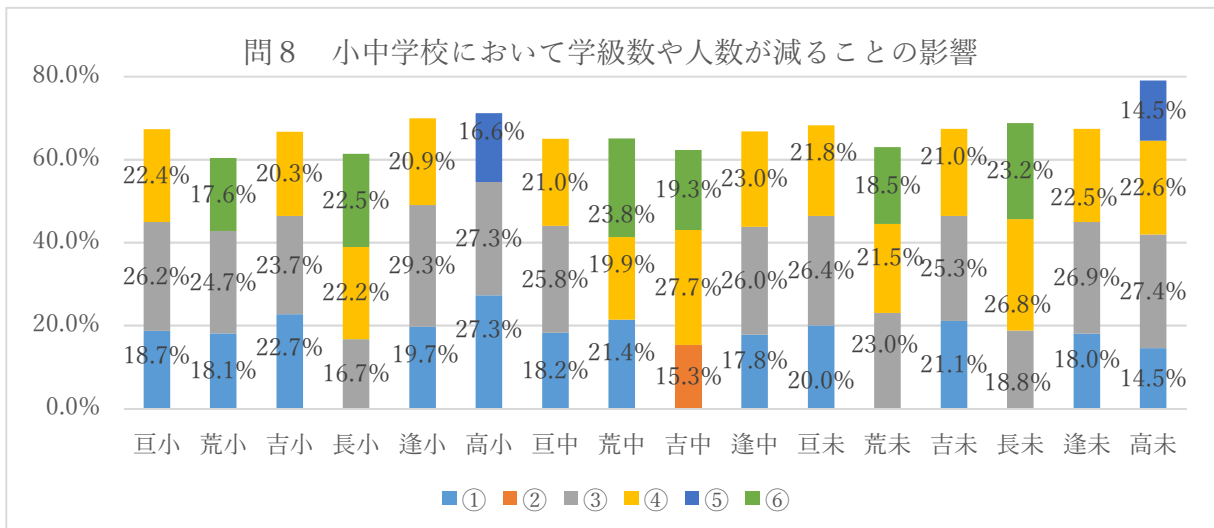
問8 小中学校において、学級数や学級の人数が減ることの影響について(3つ) (上位3位)

- 全体 ③子どもの人数が減ることで、かえって一人一人の個性や特性に応じたきめ細やかで丁寧な指導が期待できる・・・25.5%
 ④人間関係が固定化・序列化する恐れや、学級の中で人間関係が破綻した場合、学級編制による回避ができないことが不安である・・・21.7%
 ①一人一人が担う部分が多くなるため、工夫・協力し合うことを学び、やりがいや責任感が生まれることが期待できる・・・18.8%
- 在籍児童 ③25.3% ④21.5% ①18.8%
 未就私立 ③25.7% ④23.3% ①18.7%



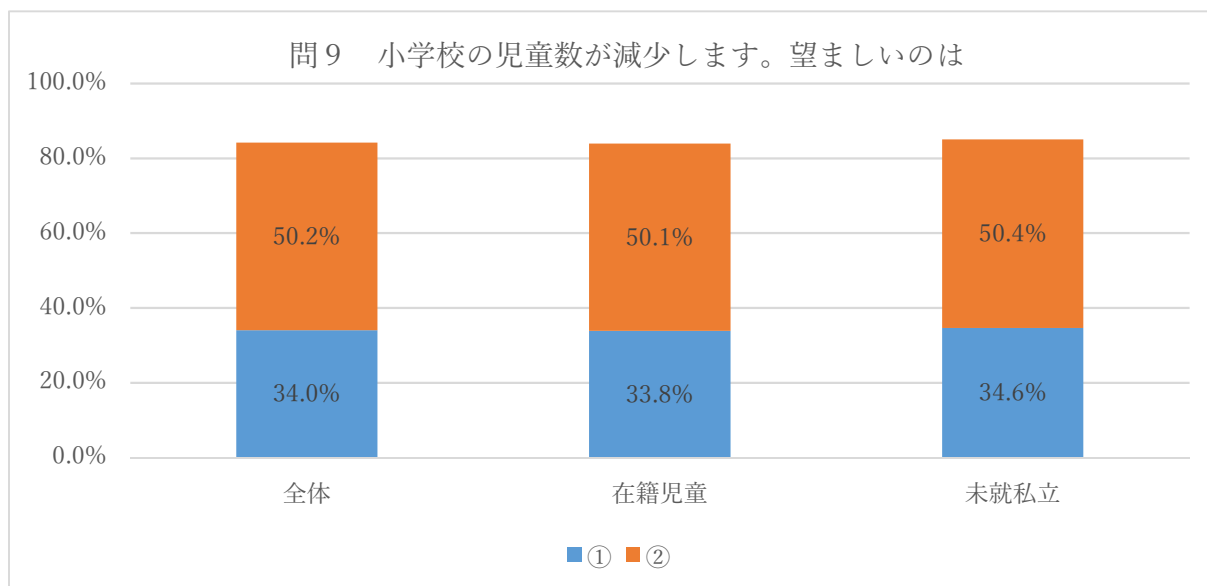
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	③26.2%	④22.4%	①18.7%	荒小	③24.7%	①18.1%	⑥17.6%
吉小	③23.7%	①22.7%	④20.3%	長小	⑥22.5%	④22.2%	③16.7%
逢小	③29.3%	④20.9%	①19.7%	高小	<u>①③27.3%</u>	⑤16.6%	
亘中	③25.8%	④21.0%	①18.2%	荒中	⑥23.8%	①21.4%	④19.9%
吉中	④27.7%	⑥19.3%	②15.3%	逢中	③26.0%	④23.0%	①17.8%
亘未	③26.4%	④21.8%	①20.0%	荒未	③23.0%	④21.5%	⑥18.5%
吉未	③25.3%	①21.1%	④21.0%	長未	④26.8%	⑥23.2%	③18.8%
逢未	③26.9%	④22.5%	①18.0%	高未	③27.4%	④22.6%	<u>①⑤14.5%</u>



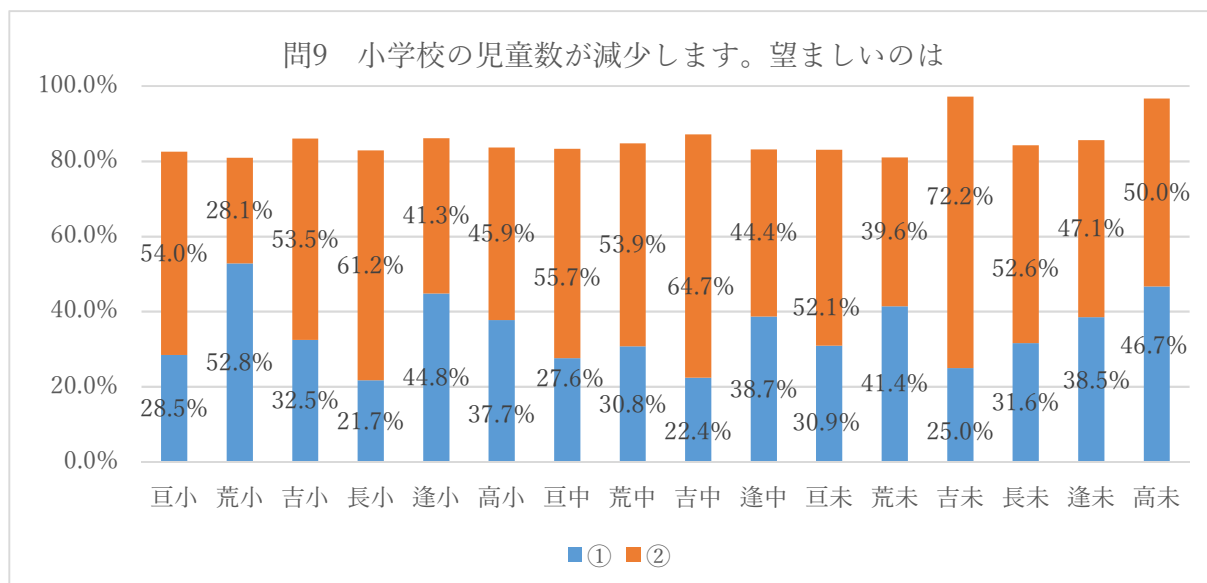
問9 小学校の児童数が今後さらに減少します。これに対して、どのようにすることが望ましいと考えますか。

- 全体 ②学校を再編・統合し、適正な児童数を確保する・・・・・・・・・・50.2%
 ①適正な児童数を確保できない場合でも、現在の学校数のままでよい・34.0%
 在籍児童 ②50.1% ①33.8%
 未就私立 ②50.4% ①34.6%



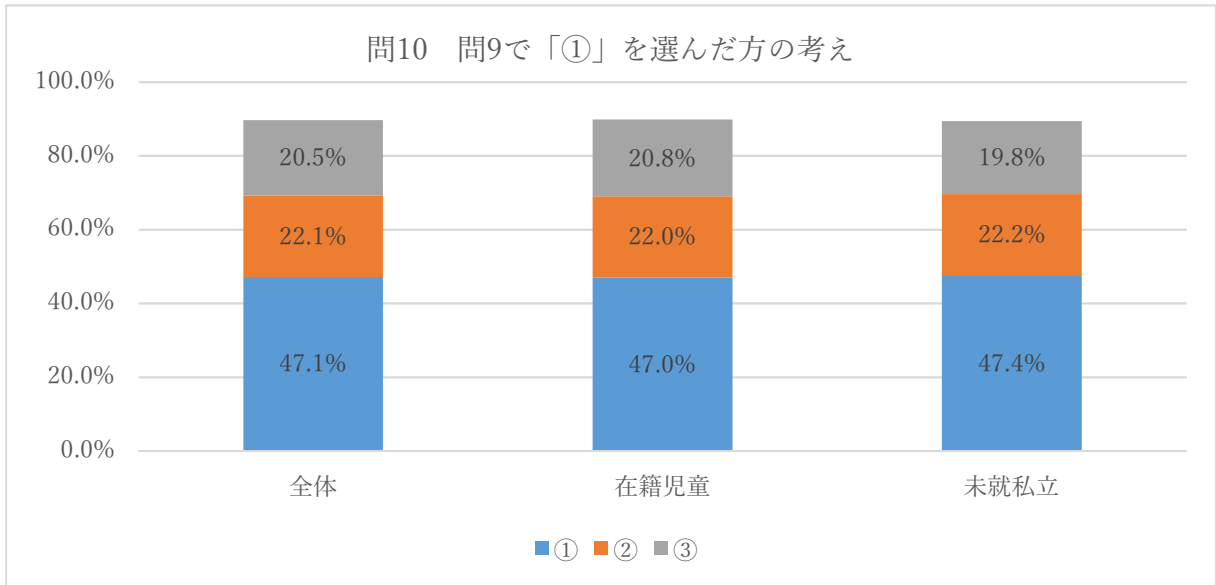
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

- | | | | | | |
|----|--------|--------|----|--------|--------|
| 亘小 | ②54.0% | ①28.5% | 荒小 | ①52.8% | ②28.1% |
| 吉小 | ②53.5% | ①32.5% | 長小 | ②61.2% | ①21.7% |
| 逢小 | ①44.8% | ②41.3% | 高小 | ②45.9% | ①37.7% |
| 亘中 | ②55.7% | ①27.6% | 荒中 | ②53.9% | ①30.8% |
| 吉中 | ②64.7% | ①22.4% | 逢中 | ②44.4% | ①38.7% |
| 亘未 | ②52.1% | ①30.9% | 荒未 | ①41.4% | ②39.6% |
| 吉未 | ②72.2% | ①25.0% | 長未 | ②52.6% | ①31.6% |
| 逢未 | ②47.1% | ①38.5% | 高未 | ②50.0% | ①46.7% |



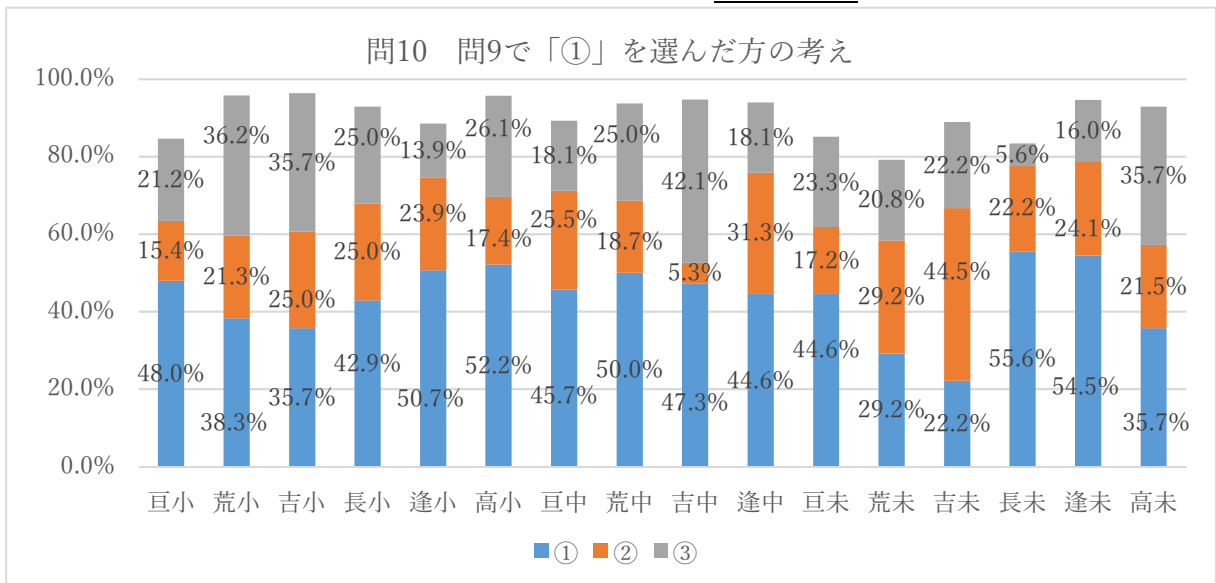
問10 問9で①を選んだ方の理由。

- 全 体 ①児童数や学級数が減少しても不都合はない・・・・・・・・・・47.1%
 ②複式学級になっても児童が相互に学び合う活動ができる・・・・22.1%
 ③地域の協力が得やすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい・・・・・・・・・・20.5%
- 在籍児童 ①47.0% ②22.0% ③20.8%
- 未就私立 ①47.4% ②22.2% ③19.8%



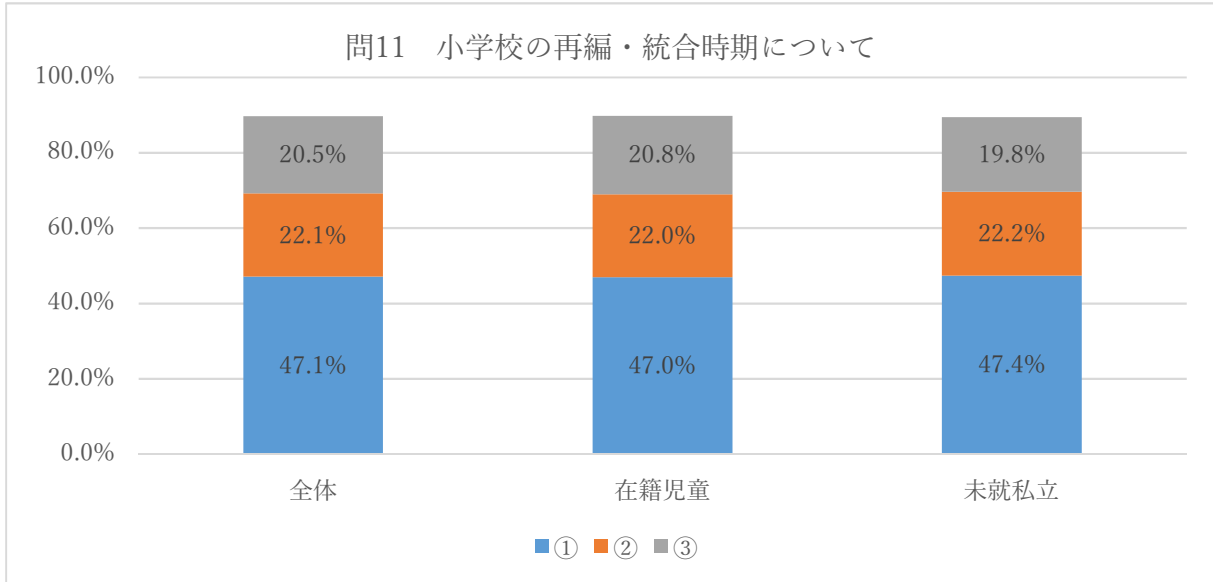
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 亘小 ①48.0% ③21.2% ②15.4% | 荒小 ①38.3% ③36.2% ②21.3% |
| 吉小 ① <u>35.7%</u> ②25.0% | 長小 ①42.9% ② <u>25.0%</u> |
| 逢小 ①50.7% ②23.9% ③13.9% | 高小 ①52.2% ③26.1% ②17.4% |
| 亘中 ①45.7% ②25.5% ③18.1% | 荒中 ①50.0% ③25.0% ②18.7% |
| 吉中 ①47.3% ③42.1% ②5.3% | 逢中 ①44.6% ②31.3% ③18.1% |
| 亘未 ①44.6% ③23.3% ②17.2% | 荒未 ① <u>29.2%</u> ③20.8% |
| 吉未 ②44.5% ① <u>22.2%</u> | 長未 ①55.6% ②22.2% ③5.6% |
| 逢未 ①54.5% ②24.1% ③16.0% | 高未 ① <u>35.7%</u> ②21.5% |



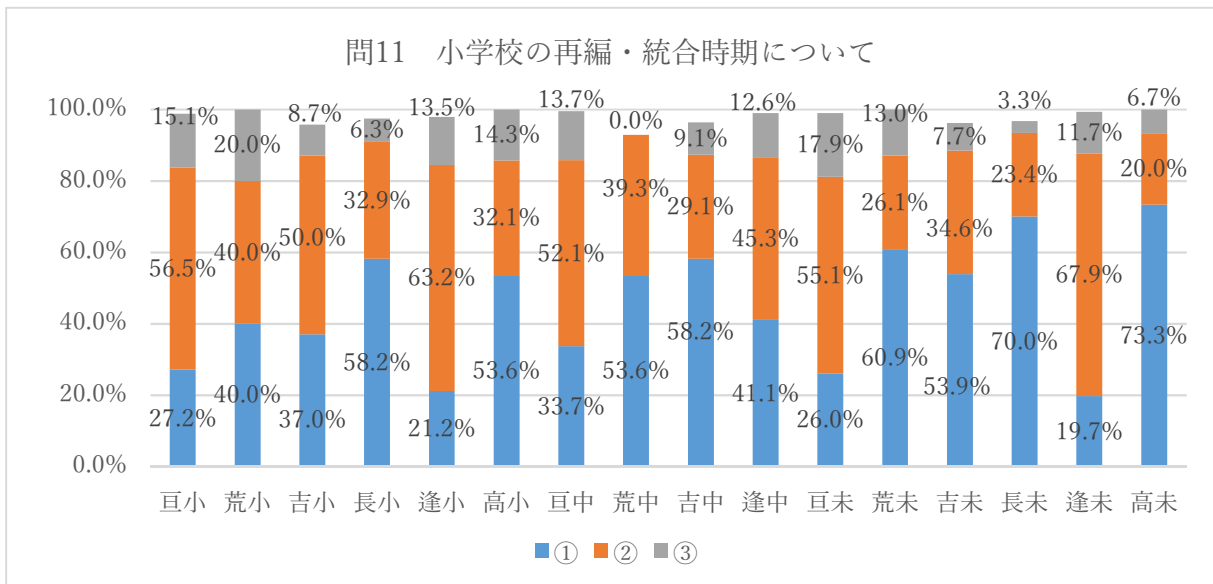
問11 小学校の再編・統合時期について。

全 体	①短期的に（2～4年後）	47.1%	
	②中期的に（5～9年後）	22.1%	
	③長期的に（10年後降）	20.5%	
在籍児童	①47.0%	②22.0%	③20.8%
未就私立	①47.4%	②22.2%	③19.8%



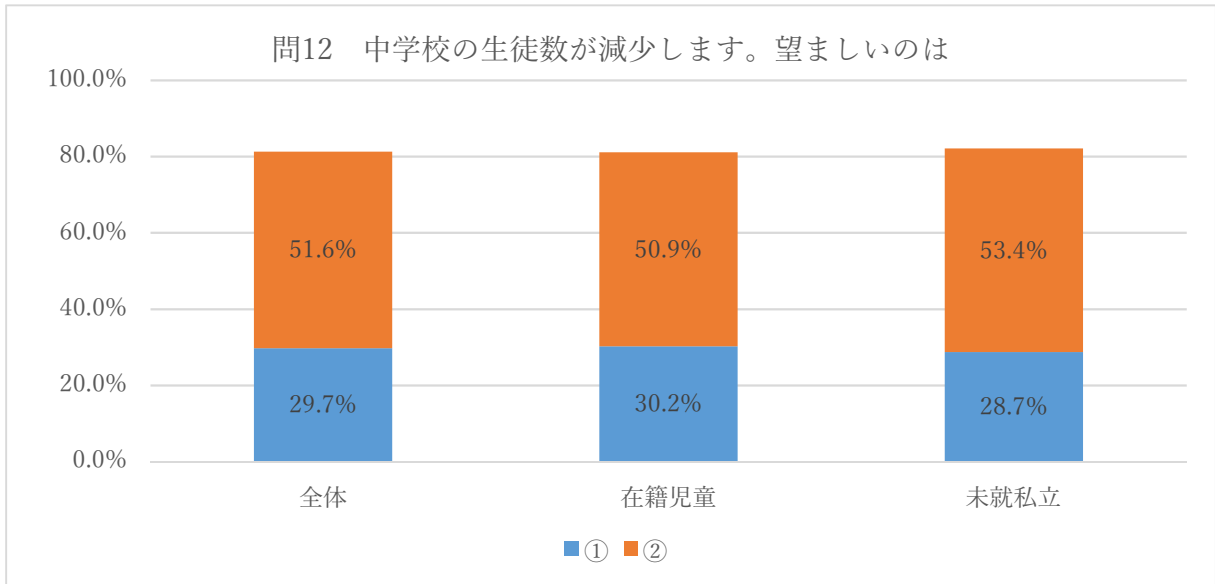
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

巨小	②56.5%	①27.2%	③15.1%	荒小	<u>①②40.0%</u>	③20.0%	
吉小	②50.0%	①37.0%	③8.7%	長小	①58.2%	②32.9%	③6.3%
逢小	②63.2%	①21.2%	③13.5%	高小	①53.6%	②32.1%	③14.3%
巨中	②52.1%	①33.7%	③13.7%	荒中	①53.6%	②39.3%	③0.0%
吉中	①58.2%	②29.1%	③9.1%	逢中	②45.3%	①41.1%	③12.6%
巨未	②55.1%	①26.0%	③17.9%	荒未	①60.9%	②26.1%	③13.0%
吉未	①53.9%	②34.6%	③7.7%	長未	①70.0%	②23.4%	③3.3%
逢未	②67.9%	①19.7%	③11.7%	高未	①73.3%	②20.0%	③6.7%



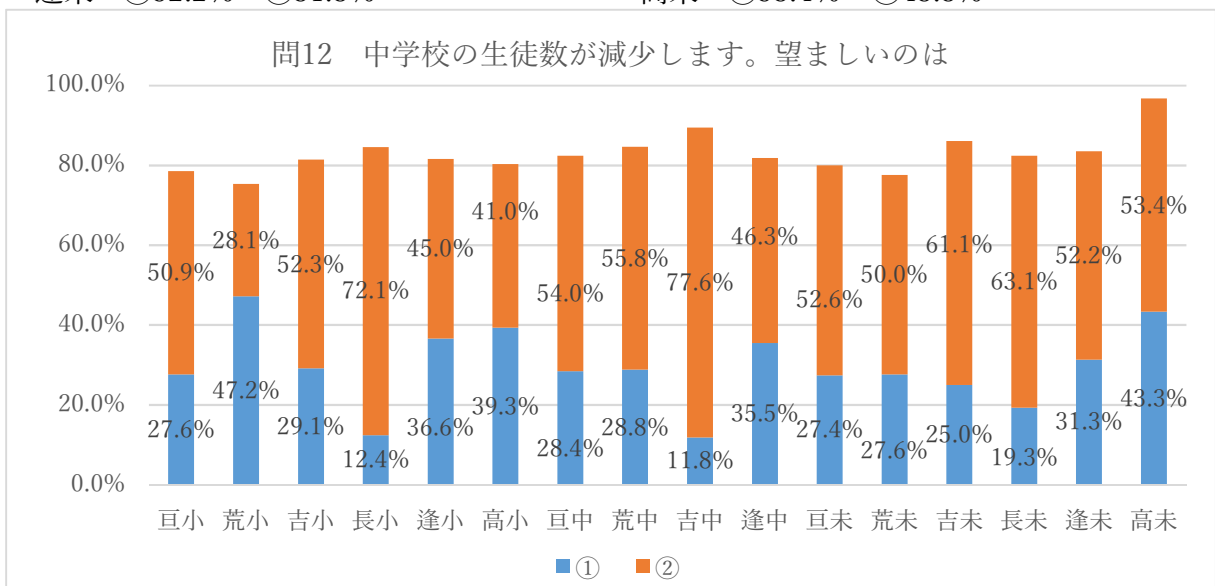
問12 中学校の生徒数が今後さらに減少します。これに対して、どのようにすることが望ましいと考えますか。

- 全体 ②学校を再編・統合し、適正な生徒数を確保する・・・・・・・・・・51.6%
 ①適正な生徒数を確保できない場合でも、現在の学校数のままでよい・29.7%
 在籍児童 ②50.9% ①30.2%
 未就私立 ②53.4% ①28.7%



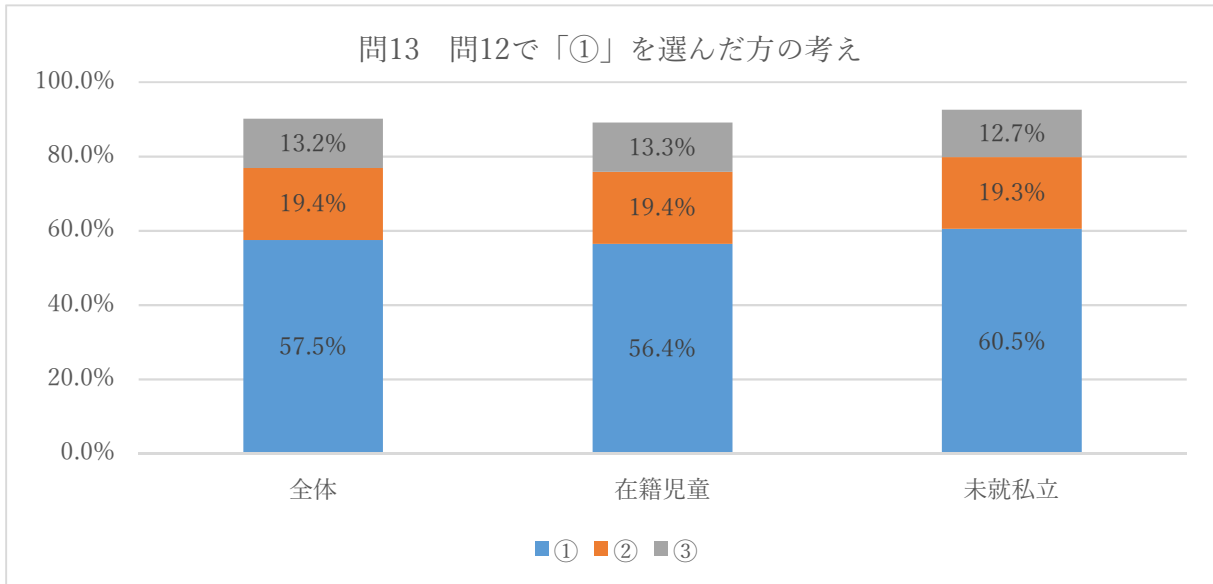
下記のグラフは、学校別の集計です。

- | | |
|------------------|------------------|
| 巨小 ②50.9% ①27.6% | 荒小 ①47.2% ②28.1% |
| 吉小 ②52.3% ①29.1% | 長小 ②72.1% ①12.4% |
| 逢小 ②45.0% ①36.6% | 高小 ②41.0% ①39.3% |
| 巨中 ②54.0% ①28.4% | 荒中 ②55.8% ①28.8% |
| 吉中 ②77.6% ①11.8% | 逢中 ②46.3% ①35.5% |
| 巨未 ②52.6% ①27.4% | 荒未 ②50.0% ①27.6% |
| 吉未 ②61.1% ①25.0% | 長未 ②63.1% ①19.3% |
| 逢未 ②52.2% ①31.3% | 高未 ②53.4% ①43.3% |



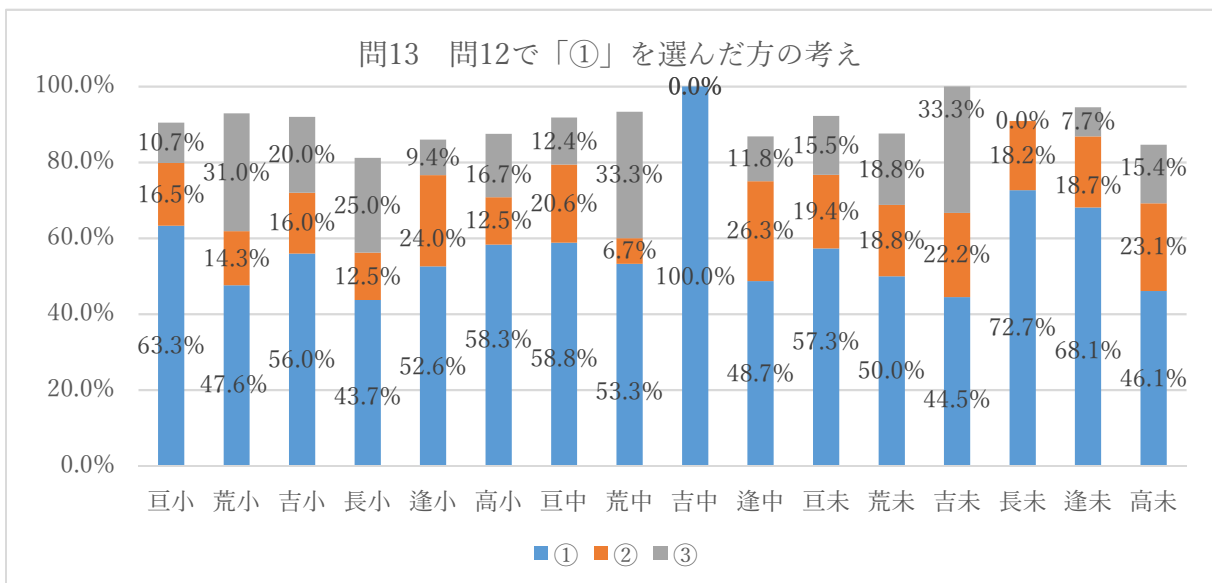
問13 問12で①を選んだ方の理由。

- 全 体 ①生徒数や学級数が減少しても不都合はない・・・57.5%
 ②複式学級になっても児童が相互に学び合う活動ができる・・・19.4%
 ③地域の協力が得やすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい・・・13.2%
- 在籍児童 ①56.4% ②19.4% ③13.3%
- 未就私立 ①60.5% ②19.3% ③12.7%



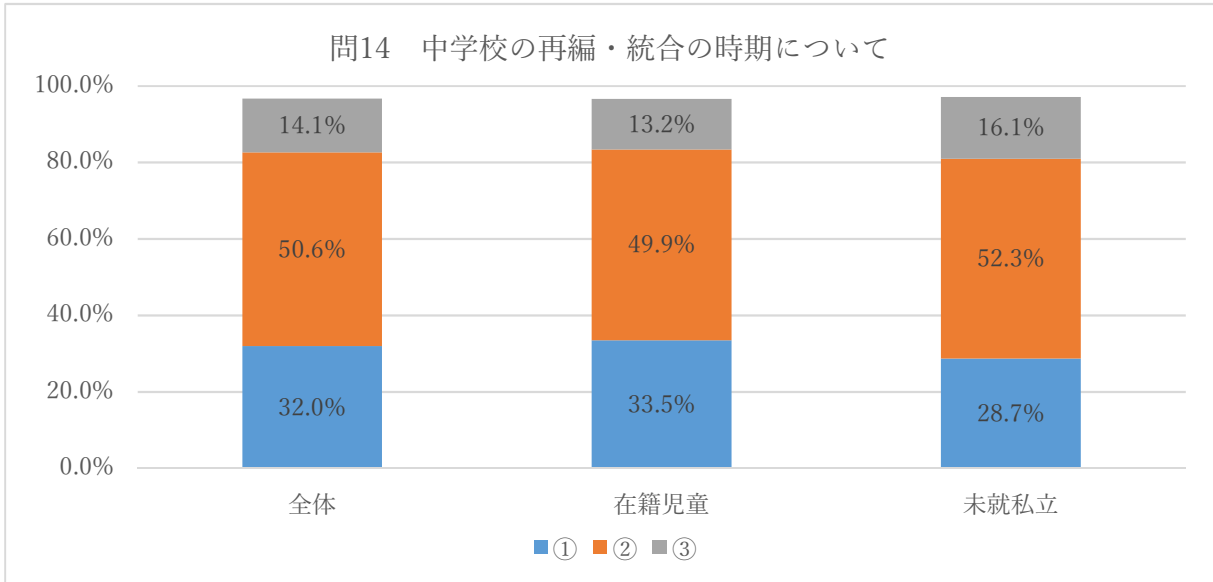
下記のグラフは、学校の集計です。※下線は同率

亘小	①63.3%	②16.5%	③10.7%	荒小	①47.6%	③31.0%	②14.3%
吉小	①56.0%	③20.0%	②16.0%	長小	①43.7%	③25.0%	②12.5%
逢小	①52.6%	②24.0%	③9.4%	高小	①58.3%	③16.7%	②12.5%
亘中	①58.8%	②20.6%	③12.4%	荒中	①53.3%	③33.3%	②6.7%
吉中	①100%	<u>②30.0%</u>		逢中	①48.7%	②26.3%	③11.8%
亘未	①57.3%	②19.4%	③15.5%	荒未	①50.0%	<u>②③18.8%</u>	
吉未	①44.5%	③33.3%	②22.2%	長未	①72.7%	<u>②18.2%</u>	③0.0%
逢未	①68.1%	②18.7%	③7.7%	高未	①46.1%	②23.1%	③15.4%



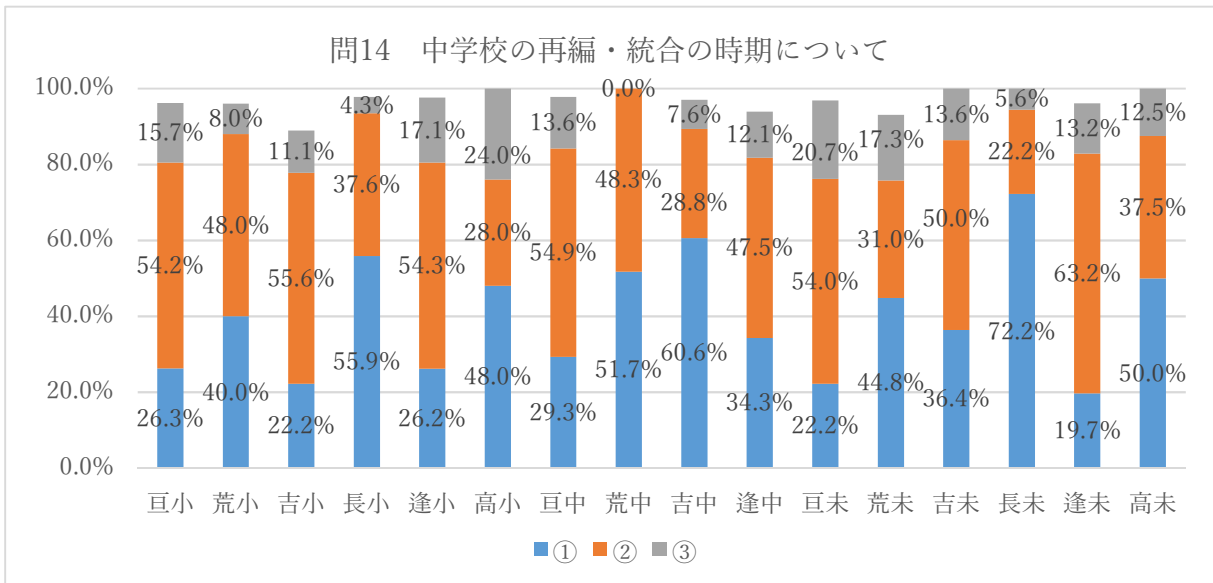
問14 中学校の再編・統合時期について。

全 体	②中期的に（5～9年後）	50.6%
	①短期的に（2～4年後）	32.0%
	③長期的に（10年後降）	14.1%
在籍児童	②	49.9%
	①	33.5%
	③	13.2%
未就私立	②	52.3%
	①	28.7%
	③	16.1%



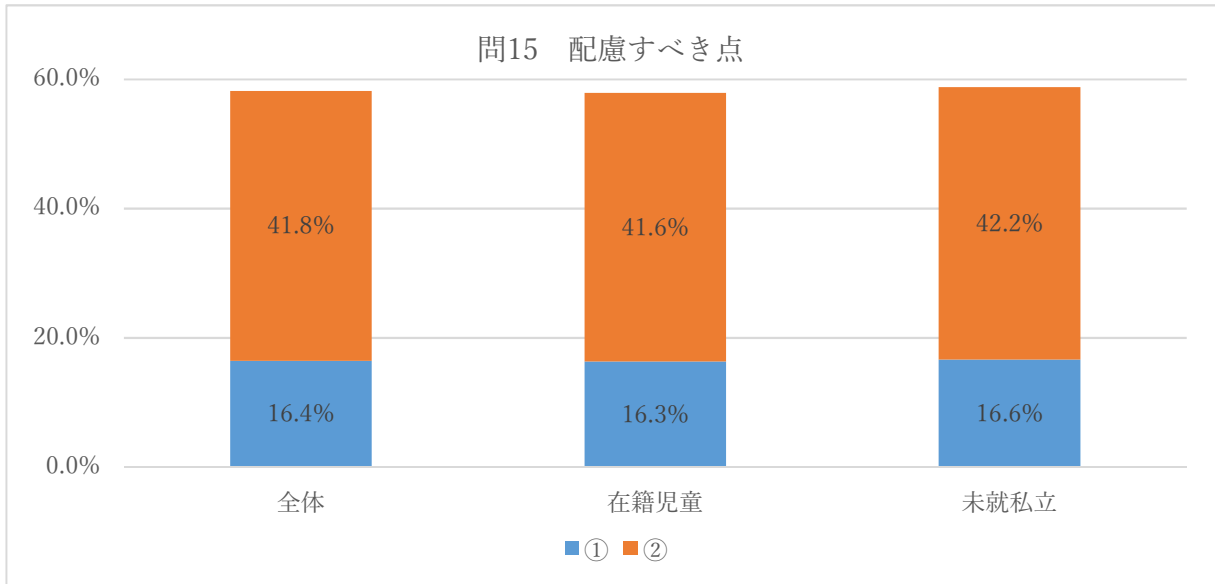
下記のグラフは、学校別の集計です。※下線は同率

亘小	②54.2%	①26.3%	③15.7%	荒小	②48.0%	①40.0%	③8.0%
吉小	②55.6%	①22.2%	③11.1%	長小	①55.9%	②37.6%	③4.3%
逢小	②54.3%	①26.2%	③17.1%	高小	①48.0%	②28.0%	③24.0%
亘中	②54.9%	①29.3%	③13.6%	荒中	①51.7%	②48.3%	③0.0%
吉中	①60.6%	②28.8%	③7.6%	逢中	②47.5%	①34.3%	③12.1%
亘未	②54.0%	①22.2%	③20.7%	荒未	①44.8%	②31.0%	③17.3%
吉未	②50.0%	①36.4%	③13.6%	長未	①72.2%	②22.2%	③5.6%
逢未	②63.2%	①19.7%	③13.2%	高未	①50.0%	②37.5%	③12.5%



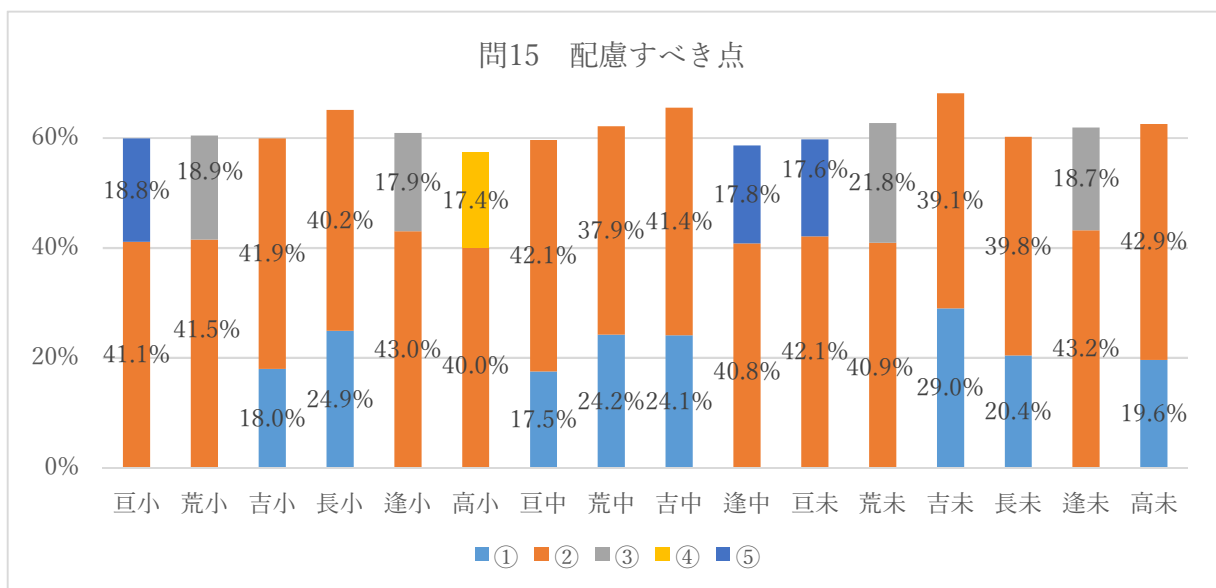
問15 学校の適正規模・適正配置を検討するうえで、配慮すべきと思われる点（2つ）

- 全 体 ②児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全・・・41.8%
 ①適正な児童生徒数、学級数の確保・・・・・・・・・・16.4%
 在籍児童 ②41.6% ①16.3%
 未就私立 ②42.2% ①16.6%



下記のグラフは、学校別の集計です。

- | | |
|------------------|------------------|
| 亘小 ②41.1% ⑤18.8% | 荒小 ②41.5% ③18.9% |
| 吉小 ②41.9% ①18.0% | 長小 ②40.2% ①24.9% |
| 逢小 ②43.0% ③17.9% | 高小 ②40.0% ④17.4% |
| 亘中 ②42.1% ①17.5% | 荒中 ②37.9% ①24.2% |
| 吉中 ②41.4% ①24.1% | 逢中 ②40.8% ⑤17.8% |
| 亘未 ②42.1% ⑤17.6% | 荒未 ②40.9% ③21.8% |
| 吉未 ②39.1% ①29.0% | 長未 ②39.8% ①20.4% |
| 逢未 ②43.2% ③18.7% | 高未 ②42.9% ①19.6% |



教育環境の整備に関するアンケート調査 ご協力をお願い

令和3年1月

亶理町教育委員会
教育長 奥野光正

保護者の皆様には、日頃から本町教育行政に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本町では少子高齢化及び人口減少問題による児童・生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進行する中で、学校生活、学校運営等に関する諸問題を調査することを目的として、「亶理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会」において望ましい教育環境の在り方等について検討を進めることとしております。

このアンケートは、望ましい学校規模の検討の基礎資料とするため、皆様にご協力をお願いするもので、①町立小中学校に在籍する児童生徒の保護者の方々、②①以外で亶理町に住民票を有する児童生徒の保護者の方々、並びに③未就学児の保護者の方々を対象に実施するものです。

記入に際しましては、教育環境の整備に関するアンケート調査資料をご確認いただき回答をお願いします。このアンケートは無記名であり、回答は全て統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。本アンケートの趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

< 記入上の注意 >

- 1 このアンケートは、お子さんの保護者の方がお答えください。氏名をご記入していただく必要はありません。
- 2 回答は、別紙マークシートに該当する番号を鉛筆で塗りつぶして下さい。
- 3 設問中、小学校又は中学校に関する部分については、現に在籍している児童生徒がいない場合でも今後在籍すると想定してお答えください。
- 4 記入いただいたアンケートは、令和3年1月20日(水)までに、封筒に入れて学校に提出をお願いします。ただし、このアンケートが郵送で届いた場合は、同封の返信用封筒で上記期日までに投函願います。
- 5 このアンケートについてのお問い合わせは、下記までをお願いします。

お問い合わせ先 亶理町教育委員会 教育総務課 (0223-34-0509)

教育環境の整備に関するアンケート調査資料

亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会

○アンケート調査に入る前に、次のⅠ・Ⅱについて、必ずお読みいただきますようお願いいたします。

Ⅰ アンケート調査に当たって

1 調査の目的

人口減少社会を見据え、将来を担う亘理町の子どもたちの「望ましい学校規模」を検討するために本調査を行うものです。

2 調査対象

令和2年度において、①町立小・中学校に在籍する児童生徒の保護者の方々、②①以外で亘理町に住民票を有する児童生徒の保護者の方々、並びに③未就学児の保護者の方々を対象に実施するものです。

3 調査用紙の配付及び回収

お子さんが通学している学校から配付されます。記入いただいたアンケートは下記期限まで学校に提出をお願いします。複数のお子さんがある場合は、複数の回答をお願いいたします。

ただし、このアンケートが郵送で届いた場合には、同封の返信用封筒で下記の期限までに投函願います。提出期限は令和3年1月20日（水）になります。

4 本調査の活用

亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会において、アンケート結果を分析・検討し、望ましい学校規模を考える資料とします。

なお、このアンケートは調査結果の分析・検討結果がそのまま計画になるわけではありません。

5 調査結果及び調査結果の分析・検討の公表と報告書の作成

本調査の結果と亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会の分析・検討結果は、地区（小学校区あるいは中学校区）ごとに懇談会を開催し公表する予定です。その際、調査対象者以外の皆様にもご参加いただき、幅広くご意見をいただく予定です。

分析・検討結果と懇談会の内容を「報告書」としてまとめ、町当局（亘理町教育委員会）へ提出します。

Ⅱ アンケート調査の前に

1 今後（2020年以降）の亘理町の「総人口推計値」と「0歳から15歳の人口推計値」並びに、「亘理町立学校の児童生徒数（全学年合計及び令和4年以降の学年別）推移」の表から、児童生徒数の減少＝各学校の学級数の減少を確認します。

(1) 亘理町の総人口・及び0歳から15歳の人口の推計値

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総人口推計値	32,894人	31,046人	29,004人	26,834人	24,502人	22,154人
0歳から15歳の人口推計値	3,824人	3,416人	3,036人	2,647人	2,304人	1,997人

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年度推計）」より

(2) 亘理町立学校の学校別児童生徒数の推移（全学年合計）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
亘理小学校	667人	655人	630人	633人	618人	613人	592人
荒浜小学校	94人	94人	86人	96人	85人	81人	72人
吉田小学校	90人	90人	87人	79人	70人	62人	62人
長瀬小学校	139人	120人	111人	103人	93人	89人	83人
逢隈小学校	585人	587人	590人	569人	550人	534人	513人
高屋小学校	65人	62人	56人	50人	52人	43人	40人
亘理中学校	432人	452人	433人	422人	398人	384人	383人
荒浜中学校	60人	58人	61人	48人	50人	44人	49人
吉田中学校	89人	93人	98人	84人	70人	63人	55人
逢隈中学校	278人	277人	296人	300人	316人	298人	299人

亘理町住民基本台帳より

(3) 令和4年から令和8年における亘理町立学校の学校別・学年別児童生徒数の推移

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年		
亘理小1年生	98人	99人	95人	96人	82人	逢隈小1年生	110人	81人	83人	71人	84人		
	2年生	122人	98人	99人	95人		96人	2年生	84人	110人	81人	83人	71人
	3年生	103人	122人	98人	99人		95人	3年生	105人	84人	110人	81人	83人
	4年生	101人	103人	122人	98人		99人	4年生	87人	105人	84人	110人	81人
	5年生	110人	101人	103人	122人		98人	5年生	102人	87人	105人	84人	110人
	6年生	96人	110人	101人	103人		122人	6年生	102人	102人	87人	105人	84人
荒浜小1年生	10人	19人	10人	9人	5人	高屋小1年生	3人	6人	9人	5人	7人		
	2年生	19人	10人	19人	10人		9人	2年生	10人	3人	6人	9人	5人
	3年生	14人	19人	10人	19人		10人	3年生	10人	10人	3人	6人	9人
	4年生	13人	14人	19人	10人		19人	4年生	14人	10人	10人	3人	6人
	5年生	21人	13人	14人	19人		10人	5年生	7人	14人	10人	10人	3人
	6年生	9人	21人	13人	14人		19人	6年生	12人	7人	14人	10人	10人
吉田小1年生	11人	9人	8人	10人	9人	亘理中1年生	143人	121人	134人	129人	120人		
	2年生	15人	11人	9人	8人		10人	2年生	158人	143人	121人	134人	129人
	3年生	9人	15人	11人	9人		8人	3年生	132人	158人	143人	121人	134人
	4年生	18人	9人	15人	11人	9人	荒浜中1年生	19人	10人	21人	13人	15人	
	5年生	17人	18人	9人	15人	11人		2年生	19人	19人	10人	21人	13人
	6年生	17人	17人	18人	9人	15人		3年生	23人	19人	19人	10人	21人
長瀬小1年生	18人	13人	12人	16人	7人	吉田中1年生	27人	21人	22人	20人	13人		
	2年生	17人	18人	13人	12人		16人	2年生	36人	27人	21人	22人	20人
	3年生	13人	17人	18人	13人		12人	3年生	35人	36人	27人	21人	22人
	4年生	20人	13人	17人	18人	13人	逢隈中1年生	109人	105人	102人	91人	106人	
	5年生	22人	20人	13人	17人	18人		2年生	86人	109人	105人	102人	91人
	6年生	21人	22人	20人	13人	17人		3年生	101人	86人	109人	105人	102人

亘理町住民基本台帳より

※小1・小2・中1は35人で1学級、それ以外の学年は40人で1学級

(4) 中学校の学校規模 ※令和2年5月1日現在

	大河原管内	仙台管内	北部管内	東部管内	気仙沼管内	合計
3学年単学級の中学校数	6	4	1	12	5	27

※仙台管内の中中学校(38校)で、3学年とも単学級の中中学校は「浦戸中学校」「荒浜中学校」「吉田中学校」「坂元中学校」で、浦戸中学校はへき地校で坂元中学校は次年度山下中学校と一緒にになる。

2 児童生徒にとって望ましい学校規模を考えます。

(1) 望ましい学校規模

小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが望まれ、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級の枠を超えて集団を編成したりするためには1学年2学級以上あると一層望ましい。

中学校では、全学級でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたりするためには少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が望まれ、しかも免許外指導（教える教科の免許がなくても授業を受け持つ）をなくすためには少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

※本町の場合、望ましい学校規模にするためには、大規模な通学区域の見直しが必要となります。

(2) 学級数が少ないことで課題と考えられる点

- クラス替えができないため児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- 学級内で男女比の偏りが生じやすく、体育の学習や音楽の学習で制約が生じる。
- 生徒指導上課題の見られる子どもの問題行動にクラス全体が大きな影響を受けやすい。
- 互いに切磋琢磨する機会が少ない。
- 運動会や文化祭などの集团的行事のスケールが小さくなりやすい。
- 修学旅行や社会見学の交通費、卒業アルバム等の単価が高くなる。
- 特に中学校では、「部活動」の種類が限定される。
- 特に中学校では、教科の専門教員が配置されず免許を所持しない教員が教科指導をすることがある。
- 特に中学校では、高校進学の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある。

(3) 学級数が少なくても良いと考えられる点

- 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい。
- 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- 地域の協力が得やすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

平成27年文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～より

【参考】

現在の巨理町立小中学校の通学区域は以下の図のようになります。

小学校の通学区域



中学校の通学区域



○次のページから調査になります。

教育環境の整備に関するアンケート調査

【通学区域について】

問1	現在お住まいの住所はどこの小学校区ですか。 ※小規模特認校制度を利用してお子さんが高屋小学校に通学している場合は「高屋小学校」となります。
----	--

- ①：亘理小学校 ②：荒浜小学校 ③：吉田小学校
④：長瀬小学校 ⑤：逢隈小学校 ⑥：高屋小学校

【学校の規模について】

問2	小学校における一つの学年での学級数は、どの程度が望ましいと考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
----	--

- ①：1学級 ②：2～3学級程度 ③：4～5学級程度
④：その地（ ）

問3	中学校における一つの学年での学級数は、どの程度が望ましいと考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
----	--

- ①：1学級 ②：2～3学級程度 ③：4～5学級程度
④：その地（ ）

問4	一定規模以上（人数の多い）の学校の「よい」と感じる点はどれですか。当てはまる番号を選んでください。（3つまで）
----	---

- ①：切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である
- ②：競争意識が生まれやすい環境である
- ③：人間関係の幅が広がる
- ④：多様な学習形態で授業を展開できる
- ⑤：多くの行事により、子どもを育てることができる
- ⑥：大勢で様々な活動ができる
- ⑦：個々の活動の場が増え、責任感が育てやすい
- ⑧：学校全体にエネルギーがある
- ⑨：特にない
- ⑩：分からない
- ⑪：その他具体的にあればご記入ください

問5	一定規模以上（人数の多い）の学校の「よくない」と感じる点はどれですか。当てはまる番号を選んでください。（3つまで）
----	---

- ①：問題が生じた場合、教師が気づかない
- ②：競争意識が薄くなりやすい
- ③：人間関係が希薄になりやすい
- ④：校庭や体育館での活動に制限が生じる
- ⑤：友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる
- ⑥：一人一人の活躍の場が少ない
- ⑦：児童・生徒への細かい指導が行き届きにくい
- ⑧：コミュニケーション能力が育ちにくい
- ⑨：地域や保護者との関係が弱くなりやすい
- ⑩：特にない
- ⑪：分からない
- ⑫：その他具体的にあればご記入ください

問6	小規模（人数の少ない）の学校の「 <u>よい</u> 」と感じる点はどれですか。当てはまる番号を選んでください。（3つまで）
----	--

- ①：切磋琢磨しながら力を伸ばしやすい環境である
- ②：競争意識が生まれやすい環境である
- ③：多様な学習形態で授業を展開できる
- ④：多くの行事により、子どもを育てることができる
- ⑤：先生が目が届きやすく、きめ細かな指導（個別指導）がしやすい
- ⑥：全員で団結や協力がしやすい
- ⑦：個々の活動の場が増え、責任感が育てやすい
- ⑧：ゆとりや安心感など、家庭的な中で勉強ができる
- ⑨：特にない
- ⑩：分からない
- ⑪：その他具体的にあればご記入ください

問7	小規模（人数の少ない）の学校の「 <u>よくない</u> 」と感じる点はどれですか。当てはまる番号を選んでください。（3つまで）
----	--

- ①：競争意識が薄くなりやすい
- ②：友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる
- ③：集団活動・行事に支障がある
- ④：多様な考えに触れる機会が少ない
- ⑤：コミュニケーション能力が育ちにくい
- ⑥：PTA活動において、保護者への負担が多い
- ⑦：生徒指導上課題の見られる子どもの問題行動に、クラス全体が大きな影響を受けやすい
- ⑧：特にない
- ⑨：分からない
- ⑩：その他具体的にあればご記入ください

問 8	小・中学校において、学級数や学級の人数が減ることの影響について、あなたの考えに近いものはどれですか。当てはまる番号を選んでください。(3つまで)
-----	--

- ①：一人一人が担う部分が多くなるため、工夫・協力し合うことを学び、やりがいや責任感が生まれることが期待できる
- ②：適度な刺激や切磋琢磨する機会が少なくなる恐れや、多様な価値観が育ちにくくなることが不安である
- ③：子どもの人数が減ることで、かえって一人一人の個性や特性に応じたきめ細やかで丁寧な指導が期待できる
- ④：人間関係が固定化・序列化する恐れや、学級の中で人間関係が破綻した場合、学級編制による回避ができないことが不安である
- ⑤：学校行事で出場や発表の機会に恵まれることが期待できる
- ⑥：団体競技の種類・内容が制限されることが不安である
- ⑦：分からない
- ⑧：その他具体的にあればご記入ください

【小学校について】

問9	小学校の児童数が今後さらに減少します。これに対して、どのようにすることが望ましいと考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
----	--

- ①：適正な児童数を確保できない場合でも、現在の学校数のままでよい
- ②：学校を再編・統合し、適正な児童数を確保する
- ③：分からない
- ④：その他具体的にあればご記入ください

問10	問9で「①」を選んだ方にお聞きします。 当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
-----	--

- ①：児童数や学級数が減少しても不都合はない
- ②：複式学級になっても児童が相互に学び合う活動ができる
- ③：地域の協力が得やすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ④：分からない
- ⑤：その他具体的にあればご記入ください

問11	問9で「②」を選んだ方にお聞きします。 小学校の再編・統合は、今後何年を目途に行うのが良いと考え考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。 基準は令和3年4月1日とします。
-----	---

- ①：短期的に（2～4年後） ②：中期的に（5～9年後）
- ③：長期的に（10年後以降）

【中学校について】

問 12	<u>中学校</u> の生徒数が今後さらに減少します。これに対して、どのようにすることが望ましいと考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
------	--

- ①：適正な生徒数を確保できない場合でも、現在の学校数のままでよい
- ②：学校を再編・統合し、適正な生徒数を確保する
- ③：分からない
- ④：その他具体的にあればご記入ください

問 13	問 12 で「①」を選んだ方にお聞きします。 当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。
------	---

- ①：生徒数や学級数が減少しても不都合はない
- ②：複式学級になっても生徒が相互に学び合う活動ができる
- ③：地域の協力が得やすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ④：分からない
- ⑤：その他具体的にあればご記入ください

問 14	問 12 で「②」を選んだ方にお聞きします。 <u>中学校</u> の再編・統合は、今後何年を目途に行うのが良いと考え考えますか。当てはまる番号を <u>1つ</u> 選んでください。基準は令和3年4月1日とします。
------	---

- ①：短期的に（2～4年後）
- ②：中期的に（5～9年後）
- ③：長期的に（10年後以降）

【今後の学校の適正規模について】

問 15	今後、学校の適正規模・適正配置を検討するうえで、配慮すべきと思われる点はどのようなことだと考えますか。重要と思われる番号を2つ選んでください。
------	---

- ①：適正な児童生徒数、学級数の確保
- ②：児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全
- ③：小中学校 9 年間を見通した一貫教育の推進
- ④：学校と地域の繋がりや連携
- ⑤：校舎の施設整備
- ⑥：分からない
- ⑦：その他具体的にあればご記入ください

問 16	亙理町立学校の再編（統廃合含む）について、ご意見（解決しなければならない問題を含む）があればお書きください。
------	--

ご協力ありがとうございました。

亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会
アンケート調査結果報告会の記録

1 開催日時等

令和3年10月 8日（金）午後7時	亘理中学校体育館	参加者：25名
令和3年10月15日（金）午後7時	逢隈中学校体育館	参加者：20名
令和3年10月20日（金）午後7時	農村環境改善センター	参加者：25名
令和3年10月29日（金）午後7時	荒浜小学校体育館	参加者：22名

2 内容

- ・アンケート調査結果の報告
- ・主な記述に対する法的制限
- ・検討委員会の意見の公表

3 意見聴取

【亘理会場】

①男性

- ・具体的にどうするのが見えない。
- ・法的な縛りがあるからが前提になっているのではないか。
- ・自死やいじめ等も起こっており、その原因を明らかにすべきではないか。

②男性

- ・角田や丸森でも統廃合が進んでおり、亘理も他人ごとではない。
- ・いつ結論を出すのか。
- ・アンケートを踏まえて行うのは、あまり建設的でない。（ほとんど他人ごとではないか）
- ・統廃合は進めるべきであり、その方法は亘理の町づくりと関連している。
（例）スクールバスを、昼間は「さざんか号」に転用する。（町をランドデザイン）
- ・子供も減っているのに、税収も減っているのではないか。
- ・学校も老朽化し、どこかに建てなければならないが、地域に学校があることが大切なのではない。適切な教育が受けられること、部活動を選択できること等が大切なのではないか。

③女性

- ・亘理小は古いのに、人数が少ない荒浜小は新しい。早く再編すべきである。

④女性

- ・小学校は、近い場所にある方が安心である。
- ・学校がここにできたら、スクールバスはここを運行するなど、もう少しイメージできるとよい。本日の参加者の少なさからも自分事として捉えていない。

⑤男性

- ・アンケートの項目が分からなかった。
- ・統廃合の流れが見えない。
- ・宮城や亘理は不登校が多い。昔は先生方にゆとりがあった。もう少し先生方が子供たちを見られる環境だとよい。

- ・統廃合は仕方がない。そのためにも、不登校など解決すべき問題を表に出すべきである。

【逢隈会場】

①女性

- ・いろいろな意見を知ることができたが、結果的に再編・統合は決定事項なのか。

⇒（事務局回答）

※検討委員会の意見としては、再編・統合であるが、地域の声を聞いた上で再度検討する。

- ・最終的にいつ決まるのか。

⇒（事務局回答）

※決まっていない。決まり次第報告する。

②男性

- ・再編統合で進んでいるが、このままでよいと回答している人もいる。検討委員会の記録の開示はできるか。検討委員会での話し合いのプロセスが抜けている。

⇒（事務局回答）

※議事録の開示はしていない。次第等の開示はできればと思う。

③男性

- ・将来の子どもたちのために、どのような教育環境を整えるのかは大切であるが、再編・統合するまでの間、どのように教育環境を充実させていくかの議論も必要である。

④女性（①と同じ方）

- ・子ども3人がいるので、3枚のアンケート用紙を記入した。3枚に同じ回答をしたので、考えに偏りが起きないのか。

⇒（事務局回答）

※アンケート用紙を複数枚送付している家庭はある。同じ家庭でも中学生の子ども、未就学の子どもの子どもがいたら、それぞれの子どもの目線で書いてもらいたいと考えた。

⑤男性

- ・現時点で、再編統合はいつごろと考えているのか。

⇒（事務局回答）

※他市町村（角田・丸森・栗原・気仙沼など）では再編統合が進んでいる。いずれも年月がかかっている。1, 2年先の話ではない。

【吉田会場】

①女性

- ・子供が2人いる。検討委員会のメンバーは、どんな構成になっているのか。

⇒（事務局回答）

※学識経験者、町づくり協議会、PTA、保護者代表などである。現段階では、メンバーを公表していない。

- ・どんな人たちが、どんな話し合いをしているのかを公表してほしい。

- ・再編・統合の経緯が分からないので、分かるようにしてほしい。

- ・複数学級の方が良いのは分かるが、1学級が2学級になった方が良いという考えと、複数学級がさらに多くの学級の方が良いという考えは、回答の根拠が違う。複数学級にした方がよい

というアンケート結果を根拠に、再編・統合を進めるのは早計である。

- ・小学校は存続，中学校は2つになるなど，どうなるのか知りたい。保護者や地域の声を聞く機会を持ち，できるだけ内容を公表してほしい。

②男性

- ・仙台市の六郷小の統廃合の際に，情報公開がなされないために住民とトラブルになった。
- ・検討委員会のメンバーが誰なのか分からないのは，おかしい。
- ・外部の人を入れることも必要である。
- ・主役である先生や生徒の意見を聞くことも必要である。
- ・紙だけでなく，直接聞き取ること（面談）も必要なのではないか。
- ・結果ありきになっており，地域や学校，町が納得しながら進めなければならない。

③男性

- ・学区の変更は過去にあったのか。
- ・吉田小の子供が，吉田中学校に通っていたことがあった。現在は亙理中へ通っている。

⇒（事務局回答）

※鹿島小が亙理小と統合になった事実はある。

※吉田小の子供が亙理中に通うようになった経緯は分からない。

④男性

- ・30年代，2町2村の合併の際に，学区の見直しがあった。
- ・吉田小・長瀬小の子供が吉田中に通っていた。亙理中との距離の問題から，現在のようになった。
- ・以前，吉田中と亙理中の合併の話もあったが，デモ等の実施により阻止した。
- ・再編・統合の話が，どんどん進んでいるのは恐ろしい。中学校が2校になるとの話もあるが，地域の人との話し合いの結果ということなら分かるが・・・。どうしてこのような話になったのかの真意を知りたい。

⑤男性

- ・人口の減少により，再編・統合という話になっているが，町として，人を呼び込む，企業を誘致するなど，積極的に人を増やす努力が必要なのではないか。
- ・自然的な人口減少を待っての再編・統合は消極的な選択である。
- ・外部の人を入れて，多角的に話を聞くことも必要である。
- ・学校の特色が大切であり，（特認校の）高屋小は良い例である。人を外から呼び込めるのではないか。

⑥女性

- ・小学校に子供がいる。
- ・再編・統合は，いつ実施されるのか。

⇒（事務局回答）

※他市町村（角田・丸森・栗原など）では再編・統合が進んでいる。

※現役世代の人に考えてもらう問題で，減ってから考えたのでは遅い。

※時間がかかる問題であり，1，2年先の話ではない。

【荒浜会場】

①男性

- ・どうして、10月1日の荒浜地区の報告会が中止になったのか。

⇒（事務局回答）

※台風の影響であり、どここの会場でも良いとお知らせしていたので中止にした。その後、様々な意見をいただいたので、本日の開催となった。

②男性

- ・以前、検討委員会のメンバーであった。
- ・5年ほど前、学区編制の見直しをするにあたり、5年かかると言われた。学区編制については検討しないのか。

⇒（事務局回答）

※学区の見直しについては、検討委員会でも、学区地図等を基に検討した。人数を平準化しても、あまり変わらなかった。

※学区編制を見直してほしいという声をあげてもらえれば、検討する。

- ・町として、こうしたいという意見はあるのか。アンケートをしてから検討するという事なのか。

⇒（事務局回答）

※地域や保護者の思いを聞いて、それを基に方向性を出せると良い。それを町で検討していく。これからの子供たちの視点で、ご意見をいただきたい。

③男性

- ・（再編統合等について）何年後を見据えているのか。具体的に何年後とあげてもらった方が、議論が進むのではないか。

⇒（事務局回答）

※何年先と言える訳ではないが、1・2年先の話ではない。今後、委員会で検討していくことになる。

巨理町立小・中学校施設一覧

(令和4年3月31日現在)

学校名	施設	建築年月	築年数	構造	備考
巨理小	西校舎	昭和42年12月	54年	R	H17耐震補強、H27非構造物耐震補強
	東校舎	昭和53年3月	44年	R	H17耐震補強、H27非構造物耐震補強
	体育館	平成18年2月	16年	R	
	プール付属棟	昭和43年6月	53年	W	
荒浜小	校舎	昭和54年9月	42年	R	H25改修(災害復旧)
	体育館	平成19年2月	15年	R	H25改修(災害復旧)
	プール付属棟	平成28年3月	6年	R	
吉田小	校舎	昭和54年3月	53年	R	
	プレハブ校舎	平成15年9月	18年	S	
	体育館	平成10年2月	24年	R	
	プール付属棟	昭和52年7月	44年	S	
長瀬小	校舎	平成26年7月	7年	R	
	体育館	平成17年2月	17年	R	
	プール付属棟	平成17年2月	17年	R	
逢隈小	東校舎	昭和50年6月	46年	R	H26非構造物耐震補強
	西校舎	平成15年3月	19年	R	
	体育館	昭和46年3月	51年	S	H17耐震補強
	プール付属棟	平成26年3月	8年	S	
高屋小	校舎	昭和56年2月	41年	R	
	体育館	昭和56年2月	41年	S	
	プール付属棟	昭和53年7月	43年	S	H25改修(災害復旧)
巨理中	校舎	平成2年11月	31年	R	
	体育館	平成3年7月	30年	R	
	プール付属棟	平成5年3月	29年	S	
荒浜中	校舎	平成26年7月	7年	R	
	体育館	平成26年7月	7年	S	
	プール付属棟	平成15年1月	19年	R	
吉田中	校舎	昭和47年3月	50年	R	H17大規模改修、H26・H27非構造物耐震補強
	西校舎	平成7年3月	27年	R	
	体育館	昭和40年12月	56年	S	H17耐震補強、H25改修(災害復旧:床張替)
	プール付属棟	昭和55年7月	41年	S	
逢隈中	校舎	昭和57年2月	40年	R	
	校舎	昭和61年3月	36年	R	増設
	プレハブ校舎	平成17年3月	17年	S	
	体育館	昭和42年12月	54年	S	H17耐震補強
	プール付属棟	平成26年5月	7年	S	

構造区分 R：鉄筋コンクリート造

S：鉄骨その他造

W：木造

根拠区分	構造区分			備考	
	R	S	W		
減価償却年数 (減価償却資産の耐用年数等に関する省令)	47年	34年	22年		
補助事業等により取得した財産の処分制限期間 (補助金適正化法に基づく文部科学大臣告示)	平成12年度以前取得	60年	40年	24年	10年以上使用していれば文科省の承認不要、報告のみ
	平成13年度以降取得	47年	34年	22年	

(設置)

第 1 条 亘理町立小・中学校の教育環境の在り方について、広く関係者の意見を聴取し、調査検討するため、亘理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 児童生徒数の推移から将来推移を予測し今後の学校設置の在り方に関すること。
- (2) 小・中学校の施設状況の把握と施設整備の在り方に関すること。
- (3) まちづくりと学校の連携の在り方に関すること。
- (4) その他教育環境整備に必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、20 人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) 地域及びまちづくりに関係する団体の役員
- (2) 保護者
- (3) 学識経験者
- (4) 学校関係者
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

3 委員に欠員が生じたときは、必要に応じ委員を補充することができる。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。

2 欠員補充となった委員の任期は、前任委員の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会の会議は、定数の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めたときは、会議に関係者の出席を求め、参考意見を聴取することができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について、必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この告示は、平成29年5月24日から施行する。

附 則(平成31年3月26日教委告示第8号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月31日教委告示第6号)

この告示は、令和2年4月1日から施行する。

亶理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会名簿

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

委員	氏名	備考
1号委員	鈴木 光 範	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	櫻 井 幸 次	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	福 本 眞	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	鈴木 達 朗	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	三 品 信 夫	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
2号委員	佐 藤 英 晃	保護者
2号委員	高 橋 眞	保護者
2号委員	森 基 弘	保護者
2号委員	嶋 田 純 子 小 野 一 馬	保護者（令和3年11月30日まで） 保護者（令和3年12月1日から）
2号委員	宮 田 和 彦	保護者
2号委員	片 岡 光 輝	保護者
2号委員	石 田 竜 也	保護者
2号委員	鈴木 剛 史 武 蔵 裕	保護者（令和3年7月15日まで） 保護者（令和3年7月16日から）
2号委員	小 野 勝	保護者
2号委員	南 部 浩 秀	保護者
3号委員	蓬 田 和 弘	学識経験者
3号委員	富 田 栄 子	学識経験者
4号委員	上 原 徹	学校関係者
4号委員	熊 谷 正 広	学校関係者

教育委員会事務局名簿

職名	氏名	備考
教育長	奥 野 光 正	
教育次長	南 條 守 一	
教育総務課長	太 田 貴 史	
参事兼学校教育専門監	石 田 隆 幸	
参事	渡 辺 壮 一	
教育総務班長	平 塚 和 明	

亶理町立小・中学校教育環境整備計画検討委員会名簿

任期：令和2年2月13日～令和3年3月31日

委員	氏名	備考
1号委員	鈴木 光 範	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	櫻井 幸 次	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	多田 武 生	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	鈴木 達 朗	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
1号委員	三品 信 夫	地域及びまちづくりに関係する団体の役員
2号委員	佐藤 英 晃	保護者
2号委員	武澤 真 司	保護者（令和2年3月31日まで）
	高橋 真	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	平間 雄	保護者
2号委員	嶋田 純子	保護者
2号委員	齋 和 宏	保護者（令和2年3月31日まで）
	小野 勝 洋	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	木村 正 芳	保護者（令和2年3月31日まで）
	渡邊 まき子	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	丸田 和 子	保護者（令和2年3月31日まで）
	石田 竜 也	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	佐藤 和 弘	保護者（令和2年3月31日まで）
	鈴木 剛 史	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	小野 正 照	保護者（令和2年3月31日まで）
	小野 勝	保護者（令和2年4月1日から）
2号委員	水野 英 明	保護者（令和2年3月31日まで）
	南部 浩 秀	保護者（令和2年4月1日から）
3号委員	蓬田 和 弘	学識経験者
3号委員	富田 栄 子	学識経験者
4号委員	宇津江 俊彦	学校関係者（令和2年3月31日まで）
	上原 徹	学校関係者（令和2年4月1日から）
4号委員	稲田 壽	学校関係者